

# Food for Faith 信仰の糧



その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、  
その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。(詩篇1:3)

*He is like a tree planted by streams of water, which yields its fruit in season  
and whose leaf does not wither. Whatever he does prospers. (Ps 1:3, NIV)*

R. J. Jones

## リチャード・ベネット

## 礼拝

真の礼拝とは、全てを統治され、今も生きておられる神、主イエス・キリストが、神のみことばの中に現わされる時、自分の心と思いを謙遜にそのお方に集中させることです。このような時には必ず、神への降伏と賛美のうちに、神の御前にひれ伏す気持ちが内面に生じます。

## 証（あかし）

効果的な伝道とは、満ち溢れ、流れ出た結果です。つまり、聖霊に満たされたクリスチャンの人生から、聖霊が溢れ流れ出た結果です。これにより、その人の内側に住んでおられるキリストが現実であることが、他の人達に明らかになるのです。

## 霊の戦い

神のみことばによって祈る時、あなたは神のみこころに沿って祈ることになります。そして、あなたが霊的に生きることを脱線させようとするサタンとその試みに対する勝利を知ることは、神のみこころです。

# 信仰の糧

## *Food for Faith*

聖書的手引書：  
神との継続的な生きた交わりの  
ためのガイドライン

リチャード・ベネット著

私達の主、イエス・キリストの御名により、CCIM(Cross Currents International Ministries)を通じて、私と妻と共に福音のミニストリーのために、非常に忠実に働いてくださった全ての同労者の方々に、愛を込めて本書を捧げます。

「信仰の糧 (Food for Faith)」は、CCIMとIPM (国際刑務所ミニストリー : International Prison Ministry) による伝道の一環として、既に数多くの言語に翻訳され、出版されました。さらに多くの言語による翻訳、出版の働きも、現在進行中です。

## 目次

推薦のことば

はじめに

第一章 日々の楽しみ・喜び

第二章 頭と心

- 頭
- 心

第三章 祈りによる準備

- ひざまずいて
- 心をさらけだす
- 天国の視点
- 地上の問題

第四章 神と共に過ごす時

- 従順の行為
- 信仰による応答
- 礼拝における現実
- 敵への警戒

第五章 信仰の要素

第六章 語る時

- 満ち溢れ出る伝道

第七章 実か火か

- 白いページ
- 無駄にした年月
- 永遠の光

第八章 来て食べよ

付録A 神と共に過ごす時:

日々のみことばの瞑想に効果的な質問項目

付録B 聖書の学び:

知識としてのバイブル・スタディで有効な質問項目

付録C 日々の祈りのガイド



## 推薦のことば

リチャード・ベネット博士の新しい本、「信仰の糧 (Food for Faith)」を推薦できることは、誠に光栄です。本書は、「神を探す旅 (Your Quest for God)」の続編にふさわしいものです。神を信ずることなしに、人が神に近づくことはできません。(ヘブル11:6) また、信仰がなければ、人は神のために生きることができません。(ローマ1:17) これを可能にするためには、まず初めに信じた時(ローマ10:17)、そしてそれ以降も継続的に(第一ペテロ2:1~3、ヘブル5:12~14)、神のみことばによって信仰が**養われる**必要があります。主なるイエスはこう語られました。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」(マタイ4:4<sup>1</sup>)

それ以前に預言者エレミヤも、この原理を確認しています。

「私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ。私にはあなたの名がつけられているからです。」(エレミヤ15:16<sup>1</sup>)

最大の益を得るためには、霊的な食物である神のみことばが、**味わわれ、栄養とされ、消化されなければなりません**。私達が神と共に親密な時を過ごす中で、この過程がどのように起こるかを、ベネット博士は示してくださっています。第八章はその意味で最も助けとなる章です。

世俗的な人道主義(ヒューマニズム)中心のこの時代、一般的なクリスチャンは、内住されるキリストに、信仰によって完全に頼りきらなくても神のために生きられる、と洗脳されてしまっています。(ガラテヤ2:20) 本書は私達全てに対する天からのメッセージだと言えるでしょう。本書が神より与えられた使命を果たす中、神がその働きを祝福してくださいませよう、願います。

スティーブン・オルフォード博士  
インスティテュート・フォー・ビビカル・プリーチング創立代表  
テネシー州メンフィス

---

<sup>1</sup> 訳者注。本書の聖書箇所は、言及がない限り、新改訳聖書から引用しています。本書に引用されている聖書箇所について、ご自分の聖書で、確認されることをお勧めします。

## はじめに

「信仰の糧 (Food for Faith)」は、私が妻との結婚25周年を迎えようという時に著した、「神を探す旅 (Your Quest for God)」の続編です。当時私達は、キリストの福音を明確に示した本を書き下ろし、印刷し、出版することによって、神に対する私達の感謝を表現したいと思いました。

「神を探す旅 (Your Quest for God)」の初版印刷は2万5,000部でした。そして神は、私達の簡素な愛の献げ物を、最も驚くべき方法で祝福してくださいました。

今日、「神を探す旅」は、50カ国語以上の言語に訳され、その出版部数も300万部を超え、世界中に配布されるようになりました。その需要は、今なお、劇的に増え続けています。世界各地の人達から、「神を探す旅 (Your Quest for God)」を読んだ結果、霊的に新生することになった、という知らせを受け取ることが、私達の大きな喜びの一つになりました。

やがて私達夫婦は、結婚35周年を祝うに至りました！その間、福音のための多くの扉が開かれ、10年前には予測もできなかった方法で、「神を探す旅 (Your Quest for God)」の配布が可能になりました。その結果、私達の天の父なる神への増し加わる愛と感謝の気持ちを表現するのに、「信仰の糧 (Food for Faith)」の出版以上に良い方法はないと考えました。神が前著を祝福されたように本書をも祝福し、キリストにある新しい人生を見出した多くの人達を助け励ますために、ここでも、また世界各国でも用いてくださいますように願います。

しかしながら「信仰の糧 (Food for Faith)」は、「神を探す旅 (Your Quest for God)」の単なる続編ではありません。主ともっと親密な関係を持ちたいと望まれる全てのクリスチャンにとって、本書は極めて重要な助けとなるであろうと、ドロシーと私は信じています。本書は、「クリスチャン生活における特別な助けと励ましを、読者のお一人一人が得られますように」という真剣な祈りと共に執筆されました。

「信仰の糧 (Food for Faith)」は、軽く読み通してしまう本でも、一度読んだら終わり、といった類の本でもありません。注意深く読んだ後も、参照すべき手引書として、手元に置いておくべき一冊です。本書に書かれた原則を自分の人生に忠実に適用する時、あなたはまだもっと親密で継続的な神との歩みをどのように深めていくかを学ぶでしょう。

身体の健康維持のために定期的な健康診断は賢明だ、と思われる人は多いでしょう。人は健康のために、お金やそれなりの時間を投資します。正しい診断と適切な処置が成されるか否かは、医師が尋ねる最初の質問に大きく関わっています。クリスチャンが、「霊の健康診断」を定期的に行なうことも、これと同じように賢明です。必要なのは、裏表のない透明な正直さを持つことと、

神と二人きりになることに時間を割くことだけです！各章の終わりには、霊の健康レベルをチェックするのに役立つ、いくつかの基本的な質問事項が提示されています。聞かれてあまり良い気がしない質問もあるかもしれません。ですが健康診断の時、検査するには痛すぎると感じる部分にこそ、一般的に問題が潜んでいることを、どうぞ覚えておいてください！

本書の執筆にあたり、私の友人だった、故J・エドウィン・オー博士から伺ったある話を、思い出しました。とりなしの祈りという目的だけを持つ重要な全国大会が招集されましたが、オー博士を含む、えり抜きのクリスチャンリーダー達と共に、ある有名なスピーカーが招待されました。ところが、エドウィン氏曰く、その匿名の彼は、丁重に参加を辞退しました。そしてその理由を、あまりに忙しすぎるため、長い時間を取られる祈り会に出席できない、と説明したのです。彼からの手紙には、「祈りに関する素晴らしいメッセージがあるので、次の機会には喜んで話しに参ります。いつでも呼んでください」とも、書かれていたそうです！祈りについて書いたり話したりすることは、実際に祈ることと比べるならば、どれほど易しいでしょう。私の心はそのことを、いやというほど良く知っています。ですから私は、一専門家としてではなく、一人の飢えた人間として、他の飢えた仲間達に、どこに行けばパン（霊の糧）が見つけれられるのかを知らせるために本書を書きました。

本書を書き進める上で、妻のドロシーは、大きな励ましであったばかりではなく、更に重要なことに、私が神と二人きりで過ごす時間を守れるように励まし、いつもできるように配慮してくれました。ドロシーと出会う以前、C・T・スタッドの祈りの一つを読み、私自身もまたそのように祈ったことを、今でも鮮明に思い出します。「主よ、私のために妻を用意しておられるのでしたら、もうあきらめてしまえ、という誘惑に駆られる時、熱く真っ赤に焼けた火かき棒のように私を刺激してくれる人でありますように！」このような妻と結婚生活を送ってきたことは、何という特権でしょう。神をほめたたえます！

私のキリストにある（霊的な）父である、ステファン・オルフォード博士が、私を救い主に導いてくださってから、50年以上が経過しました。当時、ステファン氏は、私を救いに導いてくれただけでなく、常に聖書を読み、祈る時間こそ、他の何にも増して重要だ、ということをも分かち合ってくれました。そのことを心から感謝しています。

本書で表現されている考えの大半は、神の言葉に思いを巡らせ、瞑想していた時に沸き上がってきたものです。それ以外は、神が恵み深く私の人生で出会わせてくださった、多くの優れた神の僕たちの聖書的な洞察から拾い集めた真理です。これらの忠実な男女があまりにも多数なため、このような実用的でページ数も少ない本書には、彼らのお名前を逐一、掲載できません。ですが、そのお一人一人のゆえに、主を賛美いたします。

今や「信仰の糧 (Food for Faith)」の出版を通じて、パウロが、彼の信仰の息子テモテに与えた命令に、私も従うことができます。それは、「多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい」(第二テモテ 2 : 2) という命令です。

本書は、クリスチャンが、主イエスとの継続的な交わりを楽しむことを助けるために書かれましたが、読者の中には罪を赦された喜びや、永遠の命の驚くべき保証を得た喜びを、いまだ経験したことがない、という方もおられるでしょう。あなたがそのようなお方なら、新約聖書のヨハネによる福音書を、お開きくださるようお勧めします。イエスの良き知らせが、なぜ、あなたにとって特別な助けとなるのか、そこにその理由が書かれているからです。それはつまり、こうです。

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」(ヨハネ 20 : 31)

リチャード・ベネット





*Food*  
*for*  
*Faith*

信仰の糧

---

あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。  
それゆえ、私は、金よりも、純金よりも、あなたの仰せを愛します。(詩篇119:103、127)

---

## 第一章 日々の楽しみ・喜び

以前、ある非常に上品なクリスチャンの女性から、「私が主ともっと親密な関係が持てるよう、祈ってください。」と真剣に依頼されました。どんな対人関係でも、親密さの度合いが異なります。これは特に、主イエス・キリストとクリスチャンとの関係に言えることです。

人間関係においてでさえ、感情という絆で結ばれた本当の意味での一体感、お互いの意志が融合し、価値観を共有し合う時、また共通の興味を楽しみ、オープンで正直なコミュニケーションが保たれ、お互いの思いが会おう時、開花するものです。

例を挙げると、私達夫婦は、ある手紙を受け取った時大喜びしました。それは二人のアフリカ人から送られてきた手紙でした。「昨日、赤ちゃんと共に退院して家に帰って来ました。赤ちゃんはドロシーという名の通り、時間厳守で予定通りでした。体重は3キロ、約6.5パウンドあり、無事生まれました。」この出来事は、彼ら夫婦とその家族にとって、言葉には表せないような、最高の喜びをもたらしたことでしょう。

新生児を大切に抱いて家に帰る両親の姿から、誇らしげな幸福感を容易にうかがい知ることができます。その喜びは子供の成長と共に続きます。赤ちゃんが初めて足を蹴り上げる瞬間や、初めて笑おうとする時、私達は嬉しさに満ち溢れます！小さな爪先と丸いひざ、歩き始めの第一歩。初めて、「パパ」、「ママ」という言葉を聞く、わくわくするあの瞬間！

成長のあらゆる可能性を秘めた赤ちゃんの誕生は、人の理解を超えた奇跡です。しかし、これにもまさる、素晴らしい誕生があります。それは、人がもう一度誕生し、新しく生まれ変わる（新生する）ことです。つまり、霊によって新しく生まれた人、霊的な誕生から、霊的な成長への旅へと第一歩を踏み出す人の誕生です。

しかし残念ながら、全ての人生が、誕生の喜びから完全に成熟した大人までの道を進むわけではありません。私達は、赤ちゃんドロシーの誕生の知らせを受け取ったのと同じ週に、オハイオ州シンシナティに住む旧友の娘さんが、21歳で亡くなったという悲報を受けました。精神的、肉体的、さらに社会的な意味合いで、彼女の発育は、幼児期止まりでした。両親は愛をもって彼女を、“喜びの歌”を意味する、「キャロル・ジョイ」と名付けたのですが、キャロルは亡くなった時も、赤ん坊のままでした。21歳の赤ん坊です！両親と会話するという可能性は阻止されてしまいました。それは人間の見地からは、徹底的に損なわれた人生の旅路だった、と見られてしまうでしょう。

ところが、ちょうどキャロルが決して幼児以上には成長しなかったように、今日の教会でも、多くの人々が、霊的に幼児以上には成長していないように見えます。クリスチャンとしての年月は

重ねているかもしれませんが、主にあって成長していないのです。しかし神は、霊的栄養分を与えてくださっています。そして、もしそれが適切に消化されるなら、新生した神の子供一人一人の人生に、霊的成長を促します。

聖書は、あなたのクリスチャンとしての人生が、霊的に発育阻止になるのを防ぐ、神の栄養分です。もしあなたが、幼児期の霊的好奇心から、青年期の霊的な安定へ、更には、成人期の霊的成熟へと成長していきたいのなら、神のみことばである聖書から、毎日、日々の栄養分を受け取ることが絶対に必要です。神は、聖書を毎日読むことを、単なる義務とはされませんでした。お腹をすかせたクリスチャンにとって、神が備えてくださった食物を受け取ることが、人生の中での新鮮な楽しみであり喜びとしてくださったのです。

あなたが神のみことばを霊的な栄養分として適切に消化する方法を理解した時、確かに、神のみことばはあなたにとって、尽きない喜びの源泉となり、そしてその喜びは、深まる一方になるでしょう。

恵み深い神は、霊的食物に飢え渴いている人達一人一人を、主の祝宴の席に主と共に座り、その食卓から霊的な糧を食べるようにと、預言者イザヤを通して、招いてくださっているのです。

「さあ、渴いている者は、みな水にきたれ。金のない者もきたれ。来て買い求めて食べよ。…なぜ、あなたがたは糧にもならぬもののために金を費やし、飽きることもできぬもののために労するのか。わたしによく聞き従え。そうすれば、良い物を食べることができ、最も豊かな食物で、自分を**楽しませる**ことができる。耳を傾け、わたしにきて**聞け**。そうすれば、あなたがたは生きることができる。…」(イザヤ55: 1～3 口語訳)

多くの人々が、神の言葉である聖書を読む時に、信仰の糧を聖書から直接摂取する方法を理解していないので、実際に聖書そのものを読むよりも、聖書について書かれた書物を読む方がずっと楽であると思っています。あなたが手にしている本書は、聖書を説明するための本ではなく、聖書自らが聖書を説明するような方法で聖書が読めるように、そして、あなたが聖書をそのように読むように奨励する本です！その結果、あなたは、天の父なる神との透明で親密な交わりを、ますます楽しめるようになるでしょう。

聖書を信仰の糧として読み始めたばかりの人達に、私はよくこう言います。

「すぐにあなたが理解できない箇所につぶつかるでしょうが、まずは理解できるところから読みなさい。読み続ければ必ず、すぐにあなたに分かる箇所が出てきます。そして少しずつ、分かる部分が分からない部分を理解するのに役立つようになっていきますよ！」

この意味が分かりますか？つまり、絶対にあきらめない、ということです。

人々は、世界中の教室、講義室、図書館で、「思考の糧」となる、学術的な情報を消化しています。もしも私達が、聖書をこれらと同列に、単なる宗教の教科書として扱うなら、そこから得られるものもやはり、「思考の糧」ととどまるでしょう。聖書は私達に警告しています。

「知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。」（第一コリント8:1）

神のみことばを適切に消化する方法を知らなければ、聖書の真理の知識でさえ、霊的人生において私達を建て上げる代わりに、知的プライドで私達を高ぶらせてしまう可能性があるのです。私達が日々、主と共に過ごす時、私達は知識を得る代わりに、「**信仰の糧**」を与えてくださる主の祝宴の食卓から、栄養を受け取る必要があります。

単に頭の体操として聖書を読む人々とは、著しく対照的な人達があります。自分の人生において、実際に生きてきた本当の霊的栄養源となるように聖書を読む秘訣を発見した、喜びに溢れた信者達です。これらのクリスチャンは、神との交わりを持った人生を現実的に体験し、神との交わりが豊かにされる過程で、本物の礼拝と実り豊かな奉仕の仕方を発見しています。そのような人々にとって、自意識という束縛は、神意識という祝福へと道を譲ることになります。

日々、聖書と心とを開いて、大胆に、個人的に神に近づくことは、霊的に新しく生まれ、神の子供となった全ての人に与えられた、素晴らしい特権です。

魂に栄養を与え、私達の主イエス・キリストの愛と知識において成長できる、最善の聖書の読み方は何でしょう？その秘訣は、私達が「神と共に過ごす時」と呼ぶ、主と二人きりで親密に過ごす時間に、隠されています。

「主と共に過ごす時」とは、私達の生きてきた主と、一方通行ではなく、双方の会話を持つ時間です。神は、神の言葉である聖書を通して、神の子供達に話しかけてくださいます。私達が、神の語りかけに正しく、個人的に応答するなら、神に期待する信仰を持って、聖書的に祈る方法を学ぶようになります。

聖書的に祈るとは、祈りを通して主に応答する時、今読んでいる聖書のみことばをそのまま用いることを意味します。聖書的に祈るということは、神のみこころに沿った祈りを捧げている、という確信が成長するのを楽しむことです。

聖霊によって、聖書のみことばが私達にとって生きてものとなる時、私達は聖書のみことばをそのまま使いながら、自分の心の中にある心配や思い煩いに関連付けて祈れるようになります。このように祈っていくと、マンネリ化された典型的な祈りから開放されます。そして聖書的に祈る時、あなたの人生における神の関心や目的をもっと理解できるようになっていくので、特権であ

る主との交わりを、益々楽しめるようになっていくのです。

真の祈りとは、私の意志に合わせて神のみこころをねじ曲げるのではなく、神のみこころに合わせて自分の意志を曲げることです。ヨシュアは、春の洪水の時期にイスラエルの民を先導してヨルダン川を奇蹟的に渡った時、一人の見知らぬ人に出くわしました。ヨシュアは、カナンので、神から委ねられた自分の任務が、その地を征服し、全ての異教の慣習から聖別することだ、と分かっていました。ですから彼は、抜き身の剣を持っていたこの人に、「あなたは、私たちの味方ですか、それとも敵ですか。」と尋ねました。しかし返ってきたのは意外にも、「いや違う！」という返事でした。聖書の英語訳の一種、New International Version (NIV) 訳では、これを、「いずれでもない」と翻訳しています。ヨシュアはこの答えから、この人がいずれの側にもつかない者であると理解しました。さらに「いや、私は主の軍の将として、今、来たのだ。」と続き、彼が、「いずれでもない」と答えたその意味が、明らかにされています。

ヨシュアはこの時点で、この人物がどちらの側にも立たず、全権を持って支配しようとしておられることに気付きました！全てを委ねるしるしとして、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝みました。ヨシュアは、自分が「主の軍の将（最高司令官）」の御前におり、「自分が立っているところは聖なる所である」と、悟ったのです。（ヨシュア 5：13～15）

同様に、私達も祈る時、自分の計画や戦略を神に差し出し「私達と共にいてください」と祈るのではなく、神のご計画と目的と力とに合わせて自分を調整するために、神の聖なる御前にひれ伏すべきです。

このように、聖書的に祈るとは、神の目的とみこころに調和して祈ることです。いつでも私達が祈る時に、神のみことばに自分を整え合わせていくことを学ぶ時、神のみこころに合わせて自分の意志を曲げる事は、私達一人一人を成長させる経験となります。

あなたが本当に神から聞きたいという願いを持って、聖書を祈りながら読む時、あなたは、「わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において、成長する」（第二ペテロ 3：18）ことでしょう。

既に観察してきたように、私達が本当に神の御声を聞くために耳を傾けるならば、私達は主が語られることを真に喜び楽しむのだ、とイザヤは語りました。

霊の健康診断

**Spiritual Check-up**

- 1 私が新生したクリスチャンになってから何年経ただろう。
- 2 今よりも、神とのもっと親しい交わりを楽しんでいたことがあっただろうか。
- 3 今の自分の生き方と、5年前の生き方を比べて、
  - 神と二人きりで過ごす時間が増えただろうか。
  - 神の導きと自分の願望との違いを、更にうまく見極められるようになったらどうか。

---

主よ、聞くことを教えてください。

この時代は騒がしく、絶えることなく煩わせる  
無意味な雑音で私の耳は疲れ果てています。

少年サムエルが、「お話しください。しもべは聞いております」と、  
あなたに語りかけた時のような霊を、私にください。

あなたが私の心の中で語られるのを  
私に聞かせてください。

あなたの御声に慣れさせてください。

そうすれば、この地上の音が鳴り止んだ時に、  
あなたの御声の調子は馴染み深いものとなり、  
聞こえる唯一の音が、あなたの語られる御声の音楽となるでしょう。

アーメン

A.W.トーザー

---

## 第二章 頭と心

数年前、ケニヤ北部で、ケニヤ全国の牧師とその妻たちの集いで、神のみことばを教える特別な機会が与えられました。中には、夜7時の集會に間に合うため、その日の朝4時に出発しなければならなかった人達もいました。彼らは、もっと聖書を学びたいという熱い思いだけに動かされて、アフリカの大地を干ばつと飢饉で荒廃させた、赤道直下の過酷な太陽の下、長くて疲れきってしまう道のりを歩いてやってきました。

それらケニヤの牧師達の、60%から70%が聖書を持っていないと知った時、私たちは愕然としました。これら献身的な指導者達は、クリスチャンになってからまだ2、3年ぐらいいか経っていませんでした。それでも彼らの光り輝く証（あかし）は神によって用いられ、アフリカの未開地域に、たくさんの小さな教会が誕生するに至りました。

私達の會議の始まりに、これらの牧師一人一人に聖書を手渡すことができました。そして私は数日間にわたり、指導を続けていきました。私のテーマは、次のような内容でした。「さて、あなたは今、自分の**手**に聖書を持っています。しかし、その手にある聖書のみことばが**頭**に入らなければ、祝福にはなりません！またそうなってもなお、今日、神があなたに与えたいと願われている祝福を、完全に受け取ったことにはならないのです。聖書が、神の言葉としてあなたの**心**の内側で生き始めた時に初めて、この會議が、あなたにとって長く続く祝福になったと言えるのです。すなわち、この聖書をあなたの手からあなたの頭へ、そして頭からあなたの心へと入れる方法を学ばなければならないのです。」

私は最近イギリスで、自分が十代後半にキリストに回心した当時住んでいた家を見る機会がありました。そこからさほど離れていない街灯の下で、ボブ・フrintという名の14歳の少年もまた、キリストを受け入れました。ボブの回心は、彼の人生を劇的に、そして完全に変えました。当時、彼はまだ若かったのですが、既に学校を退学し、建築現場で労働者として働いていたので、間違っても学者とは言えませんでした！

しかし、私はボブがクリスチャンになってすぐに、彼が毎日仕事に出かける前に、必ず、聖書を読む必要があることを、納得させることができました。ボブはそれまで全く教会に行ったこともありませんでしたが、間もなく、日々の「神と共に過ごす時」の中で、神のみことばに個人的に対応する事によって、靈的人生に必要な栄養をどうやって摂取するのか、学び取るようになりました。

後に、聖書の通信教育を始めたボブが、17歳でダニエル書の学びの最優秀成績を修めたことは、少なからぬ驚きでした！その後、彼が18歳で軍隊に入隊し、主に対する熱い思いを持ち続けてい

ると聞いた時、私は、なんとわくわくしたことでしょう。実際、基礎訓練キャンプに入って最初の8週間の間に、ボブは同じ兵舎にいる17人の兵士が、順々にキリストを尋ね求めた時、その一人一人と共に個人的に祈りました。やがてボブは、軍隊での任期を終えた後、宣教師になるためのトレーニングを始めるよう、神に召されている、と感じました。が、ドイツでの最終任務の飛行中、ボブの軍用機は墜落し、彼は主と共にいるために、霊的な故郷である天の家へと召されました。

飛行機の墜落現場近くには、ボブのバックパックに入っていた福音のトラクトが飛び出し、ドイツの郊外に四方八方にばらまかれていました！確かに、神のみことばは、ボブの手から頭へ、頭から心へ、そしてついには、ボブの心から多くの人の心へと前進していったのです。ボブは、主との生きた関係ではあっても、地上での限られた交わりから抜け出し、神の臨在の中での、もっと素晴らしい交わりに入るよう、召し出されたのです！

ボブのように多くの人々が、クリスチャンとしての歩みを励ます、正式な聖書の学びのための資料や訓練へのアクセスを身近に持っています。これらの熱心なアフリカの牧師達とは異なり、私達のほとんどは、神のみことばの教えを聞くために、わざわざ赤道直下の太陽の下を15時間もかけて歩く必要はありません。しかし、どのような状況であれ、私達は皆、聖書の知識をどのようにして心の経験に変えるのか—そうです、**変える**のです—、知っていなければなりません。

私は、正式な聖書の学びと、「神と共に過ごす時」との違いを、クリスチャン生活の早いうちに主に教えていただいたことを、神に感謝しています。神のみことばに接する時に、頭と心の両方が不可欠ですが、心の献身が伴わない頭の知識は、霊的な成長につながらない、と理解しておくことは重要です。

## 頭

### 聖書の学び（バイブル・スタディ）の目的と問題

「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい」（第二テモテ2：15）

聖書をきちんと学び、その内容をよく知ることは、全てのクリスチャンにとって、エキサイティングなことであり、また必要とされる時間投資です。敬虔な牧師や教師達の説教や教えを聞き、聖書の注解書などで、神の言葉に知的に馴染んでおくよう、与えられている機会をフル活用して下さい。このような情報の背景があると、神と二人きりになる「神と共に過ごす時」に、大いに役立つからです。

結局のところ、牧師や教師は、神が教会に与えてくださった賜物の一部なのです。牧師の最も重要なミニストリーとは、聖書中の様々な書の内容、前後関係や背景、執筆事情や状況を各書ごと、各章ごとに、信者達に教えることです。牧師はこの枠組みの中から、敬虔な生活や、内側が満たされた状態へと、また滅んでゆく魂を懸念する心を持つようにと、会衆を奨励すべきです。

今、私の目の前に、このような牧師による、五つの講義記録があります。数年前、ウィリアム・スティル牧師は、大学連合の神学生会議で、これらの講義を行ないました。スコットランドのアバディーン教会で、45年以上の奉仕を経た後でも、スティル牧師のミニストリーは生き生きと力強く、変わることがありませんでした。彼の牧師としての働きが、そのスコットランド教会のみにとどまらなかったのは、疑う余地がありません。今日でも、彼のメッセージや教えに影響された回心者の小さい群れや、他にも多くのクリスチャン達が、文字通り世界中でキリストに仕えているからです。大学連合の学生達に向けられたこれらの講義の中で、スティル牧師はこのように語りました。

「牧師は、羊たちを養うよう召されている。たとえ羊たちが食べたくなくても、それは変わらない。牧師は、決してヤギを楽しませる者になってはいけない。ヤギはヤギ同士、彼らの国で楽しませておくがよい。彼らのヤギらしさに迎合することによって、ヤギを羊に変わらせることは一切できない。…最も実りある牧師の責務とは、あらゆる種類の風変わりな羊たちが共に生きることができるように助け、この世にあって、ヤギの間に住んでも、なお、ヤギのようにならずに生きる方法を示してあげることだ。」

あなたが霊にあって新しく生まれた時に、このような忠実な牧師の働きを通して、あなたが祝福を受けられる教会の一部になることは、非常に重要です。

残念なことに、読者の中には、そのような牧師の指導を得られない境遇にある方もおられるでしょう。しかし、もしあなたが、忠実な牧師や教師の助けがあり、聖書の注解書を入手できるような恵まれた環境にあるとしても、そこに滞在している危険を、常に警戒しておく必要があります。その危険とは、あなたが頭で学んだことを、日々の「神と共に過ごす時」を通し、神があなたに与えようと望んでおられる霊的な糧の代わりにしてしまうという事です。

絶対そんな事があってはなりません。私達は、忠実な牧師や教師から学んで得た聖書の知識であろうと、神のみことばの知的な学びから自ら得たものであろうと、それらは、神と共に二人きりで過ごす特別な時間に、聖霊が私達の心や人生に適用させてくださる「霊的な糧」の代わりにはなり得ない、と知っておくべきです。

もちろん、聖書教師が、個人的に「神と共に過ごす時」の代わりにはなれないのと同様に、個人的に「神と共に過ごす時」を持つ事が、神が私達に与えてくださる神の言葉を学ぶ機会を無視したり、聖書を信じる教会のミニストリーの一部に成り損ねたりする、という言い訳にはなりません。

あなたの置かれた環境に関わらず、以下の提案は、知識としての聖書の学びを、さらにやりがいある充実な学びにする助けとなるでしょう。

ずいぶん前に、マイルズ・カバーデイル師<sup>2</sup>は、神のみことばを効果的に**学ぶ**ために、これらの質問事項を活用するように提案されました。その内容を換言すると、以下のようになります。

話されたことや書かれていることに対してだけでなく、以下のことにも注意を払うなら、あなたが聖書を理解するのに、大いに役立つでしょう。

- この箇所は、**誰**について語られているのか。
- この箇所は、**誰**に向けられているのか。
- 著者が使用している**特定の言葉**は何か。
- この箇所は、**どのような時（代）**に書かれたのか。
- この箇所は、**どこから**書かれたのか。
- この箇所が書かれた**目的**は何か。
- この箇所は、**どのような状況下**で書かれたのか。
- この箇所は、**その前に書かれていることと、後に書かれていること**とどのようなつながりがあるのか。

（可能であれば、索引・引照付の聖書を使って）あなたが正式に聖書を学んでいく中で、このような質問に自然に答えていく習慣がついた時、聖書全体を通して調和している驚くべき真理の宝に、あなたはわくわくするでしょう。神の啓示に含まれている預言のパノラマが少しずつ明らかになるに従って、あなたはどんどん魅了されていくでしょう。そのある部分はもう既に成就されており、ある部分はまだ成就されていません。

更に、「あなたの永遠の神」「創造における神の目的」「歴史における神の位置」「救いに関する神の原則」「神が主イエス・キリストという人の形をとってこの世に来られたこと」「あなたや私のようなクリスチャンに対し、今現在までも神が続けておられる、細部にわたる指導」に対して、あなたの目が益々大きく開かれていく時、あなたは大きく祝福されるでしょう。このような聖書の知識は、本当に素晴らしいものであり、クリスチャン一人一人が、勤勉に追い求めていくべきものです。

## 心

### 「神と共に二人きりで過ごす時」が与える矯正と助言

神のものとなったクリスチャン一人一人に対し、神が願われていることは、私達が「霊とまことをもって」神を礼拝する（ヨハネ4：24口語訳）ことです。すなわち、神との個人的な交わりの

---

<sup>2</sup> 訳者注。16世紀に聖書を英語に翻訳した人物。

中で、私達の心と頭アタマの両方が一致した状態で、神を礼拝することです。

もしあなたの学問的な聖書の学びが、客観的な知識の獲得に過ぎないならば、そのような知識はあなたにあまり益をもたらしません。実際のところ、誠実に生活に適用されない、頭だけの知識は、今日の多くのクリスチャンの大きな問題になっています。

悲しいことに、神のみことばを熟知しているのに、その素晴らしい知識の光の中を歩んでいない人達があります。そのような人々は、聖書の知識を頭の片隅にしまい込み、愚かにも、世のやり方を採用しています。何と言う悲劇でしょう。なぜなら、神のみことばは、現代的な考えや生き方に、決して同化することはないからです。

この世的な思考のままに神のみことばに接し、人間中心の人道主義文化が生み出した哲学や心理学に、みことばを一致させようとするのは、知的誠実性と道徳的高潔のあらゆる原則に違反することです。主イエス・キリストは、現代の悪の世の中から、私達を救い出すために、とてつもない代価を支払われました。そして神のみことばは、キリストを受け入れないこの世の考え方とは、明らかに相反するのです。

神のみことばは、決して人道主義文化に融合するものではないので、神が望んでおられる者に本当になりたい、と言う願いを一番の願いとして聖書を学ぶなら、それは本当に、その人の人生を変えてしまう、革命的な体験となります！神が、神の子供達一人一人に要求しておられることは、単なる頭の知識だけでなく、この心ココロが関与することなのです。

詩篇の記者は、「あなたのことばを私の頭アタマにたくわえました」とは、言わないで「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心ココロにたくわえました。」（詩篇119：11）と言ったのです。かのアドルフ・ヒトラーでさえ、長い演説の中で、聖書のみことばを引用したことがあったのです。しかし、彼にとって、この聖書の特定の節についての知識は、彼の道徳選択にも、彼の永遠の行き先にも、何の役にも立ちませんでした。明らかに、ヒトラーの頭の知識は、彼の心にまで浸透していませんでした。

あなたは、ダビデが、「神のみことばを自分の心にたくわえた」と言った時、何を意味していたのだろう、と思われているかもしれません。明らかに、ダビデは、静脈から動脈へ血液を送り出す、空洞の筋肉器官について述べていたわけではありません。当然のことながら、神のみことばを心臓ココロにたくわえることができる人などいませんから！ダビデが「心」という言葉を使った時、自分の態度・行動・生き方の方向性を決める、内なる自分の中心を意味したのです。私達が聖書を読み、自分という存在の中心に神のみことばをたくわえていく時、内側に住まわれるキリストの力により、私達を聖め、力づけ、栄養を与えてくださる神の言葉の生きた活力を、常に楽しむでしょう。

フルタイムの学生として、聖書や神学について正式に学んでいた当時、私は、「聖書の真理の蓄

積は、神がみことばを通して私に語られることを実際に聞くために、神と二人きりになることの代替にはならない」ということを学びました。更に、「神のみことばに自分を探られ判断されるよりも、神のみことばを判断してしまう方が、はるかに易しい」ということも、学びました。

大学時代、教室の講義にふざけた定義を自分達で考え、学生の間でもの笑いの種にしたものでした。「講義とは、ある資料を、教授のノートから学生のノートに、いずれの頭をも通過せずに移動する手段である！」と言った具合に。

これよりはるかに悲劇的なのは、聖書の教えが、牧師の頭から信者達の頭へと、いずれの心を揺さぶることもなく、移動してしまう場合です。神がはっきりと次のおっしゃっていることを、思い出すことでしょう。

「ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかったからです。」（ヘブル4：2）

私達が、預言者エレミヤの証と同じ体験をしたと確認できるようになった時に初めて、神のみことばが、私達の人生に、神が意図されている祝福をもたらすようになります。エレミヤはこう言いました。

「主のみことばは私の心のうちで、骨の中に閉じ込められて燃えさかる火のようになり、…。」  
（エレミヤ書20：9）

今日、神のみことばについての燃えるような確信が、多くの信者の生活から激しく見失われてしまっています。頭と心との間に、また神の御声と信者の生活との間に、真の結び付きがなされていないのです。その結果、あまりにも多くの場合、私達が知っていることと、行なうこととの間に、相互関係がほとんどないのです。

聖書の教えがあなたの心を本当に揺さぶる時、確実にあなたの生き方を変えます！このようなことが起こる時、あなたは徐々に、（家族の問題を専門的に扱う）ファミリーカウンセラーやうまく作られたセミナーといった、人間的な援助制度に頼らなくても良くなっていく自分を発見するでしょう。なぜなら、みことばを通して神があなたに約束してくださったことを、あなたが個人的に自分のものとしていくように、神が意図されていたことがわかるようになるからです。そうして内住される御霊の力により、主イエス・キリストの明確な命令に、従えるようになっていくからです。

私が説教を終えた後で、時折、会衆の中には、親切にも私を励まそうとしてくださり、「あなたの話を聞いて考えさせられました」と言ってくれる方がいます。しかしこのようなコメントをいただく時、説教が私の望んでいた目的を果たせなかったのだ、ということが分かります！なぜな

ら、神のみことばが、知性を刺激するものとして賞賛されることと、人生を変える真理として適用されることには、大きな違いがあるからです。実に説教とは、人に何か考えることだけを与えるのではなく、**行動**を与えるべきです！

同様に、もし「神と共に二人きりで過ごす時」が、信仰、従順、罪の告白、礼拝する姿勢、といった行動的応答へとつながらないのなら、それは実りある「神と共に過ごす時」ではなかったと言えます。

一方、神の子供が、頭を神のみことばの知識で満たし、心が聖霊の優しい働きがけに揺り動かされているのなら、その人は、救い主との生きた交わりを本当に楽しむことでしょう。今日でさえ、ゲスト講師として聖書大学を訪問する際、私は学生達にこう言うのです。

**「皆さんは聖書を知るためにだけ、ここで聖書を学んでいるではありません。聖書の神を知るために、聖書を学んでいるのです！」**

信者達の間で見受けられる霊的な未熟さは、若干のなめらかなフレーズと、うまくパッケージ化された聖書の概要は無能であることに対し、証する舌を持っていないことにあります。あなたが、聖書を開き、神と二人きりになるかけがえのない体験の代わりに、他のことを取り入れるなら、それが何であろうとも、神とあなたとの個人的な親密な交わりを削減するか、場合によっては、破壊してしまうことさえ可能なのです。

主との真の交わりは、クリスチャンが、神の聖なる臨在の透き通った光に遭遇した時にだけ起こります。そのような光は非常に明るく、あなたと天の父との間での、正直で率直な、心開かれたコミュニケーションを要求します。もし、あなたが神のみことばを読む時に、あなたの心が神の真理に従順に応答するなら、その真理はあなたの魂の栄養となり、主の知識と知恵において成長するでしょう。詩篇の記者が証言しています。

「私たちは、あなたの光のうちに光を見るからです。」（詩篇36：9）

また、この古い諺（ことわざ）はいまだに真理です。

「従った光は、さらに大きな光をもたらす。  
従わなかった光は、さらに深い闇夜をもたらす。」

あなたも私と同様、人に勧める方が、自らそれに従って行動するより、はるかに簡単であると、既にお気付きのことでしょう。しかし、主イエスは、預言者イザヤが、「素晴らしく不思議な助言者」（イザヤ9：6英語訳より）と表現した通り、ユニークで特別なお方です。なぜなら、私達に助言を与えるだけでなく、それを行なえるようにしてくださるお方だからです。

毎朝の「神と共に過ごす時」は、その日に待ち受けていることに対してあなたを整える為に、貴重な役割を果たします。あなたが聖書のみことばを読む時に、神はみことばを通してあなたに助言を与えてくださり、たとえ何が待ち構えていようと、何が起ころうと、主イエスこそが、あなたの内に住まわれる十分な力であり導きであると、確信できるようになるでしょう。

霊の健康診断

**Spiritual Check-up**

- 1 聖書を読む時、私の心は、頭と同じくらい進んで応答するだろうか。
- 2 祈る時、私は本当に、神との双方のコミュニケーションを取っているだろうか。
- 3 霊的人生の中で、私は、まず、人間の助言を求めているだろうか。それとも（神のみことばを通して）神の助言を求めているだろうか。（警告：「彼らは…**神の**勧めを待たず……」（詩篇106：13口語訳）
- 4 クリスチャンの奉仕の中で、私が誰かに勧めをなす時、それは、神の愛と神のみことばで満たされた思いと心から生じたものだろうか。（警告：「彼らは、**自分たちの**勧め（はかりごと）によって神に反抗した」（詩篇106：43 英語訳より）

---

このような罪は<sup>3</sup>

罪としては数えられていない罪を、私は告白する  
限りない罪深さについて——

礼拝中の世俗的関心ごと  
崇高な働きの中に潜む自己中心的な目的  
神が通り過ぎていく時、そこにあるプライド  
暗やみの中で魂が死んでいる時、そこに見られる怠惰

主の良きことを味わっていないながら、毒を含む食物を欲しがること  
天の泉のそばにいなながら、動物的な供給を渴望すること

このような罪は、私の心を欺き、  
これらの罪を唯一ご存知のあなたは、心を傷め、嘆いておられる！

ああ、いかに軽く寝過ごしてきたことか、  
日々の誤りに涙することもなく  
いかに軽く、聖なる働きのために新たに目覚めたことか、  
自分の肉に、疫病の斑点を抱え持ったままで

それでもなお、あなたの慰めは絶えることはなく、  
それでもなお、あなたの癒しの御手には効力がある  
主よ、あなた故の私の悲しみをご覧ください  
ああ、このような私をあわれんでください

父よ、あなたの御子を通してお赦してください  
あなたの御霊に対して犯した罪を

---

ウィリアム・マクラード・バンティング(1805～1866年)

---

<sup>3</sup> 訳者注。リチャード・ベネット博士による改訂版を、日本語に翻訳したもの。

### 第三章 祈りによる準備

キリストに回心した当時、私には聖書についての知識はほとんどありませんでした。しかしすぐに、聖書のページをめくるごとに、自分が読んでいるのは**神の言葉**そのものなのだ、と分かるようになりました。今日に至っても、私が聖書を読む時に、主イエスが私の心に語り続けてくださっているのだと悟り、私は喜びに満たされます。

クリスチャンになったばかりの頃でしたが、聖書を開くたび、そのみことばが私の心の中で息づくようになることを聖霊が望んでおられる、と教わりました。ですから、私は「神と二人きりで共に過ごす親密な時」を、歌の形で覚えた小さな祈りでしばしば始めていました。

神の御霊よ、私の教師になってください  
キリストに関することを、私にお示してください  
素晴らしい鍵を、私の手にお授けください  
それは留め金を外し、私を解放してくれるでしょう

主イエス・キリストは、弟子達を離れて天の御父の元に行かれる前、このように約束されました。

「しかし、その方、すなわち、真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。」  
(ヨハネ16：13)

究極のところ、教師は一人しかいません。それは聖霊です。

もしも、私達の人生の中で、**聖霊が自由に働かれる状態**にないならば、**神の言葉**を読んでもつまらなく空虚なままでしょう。

ジョン・ウェスリー（18世紀のイギリスのリバイバルで神に大いに用いられた人物で、多くの歴史家達は、このリバイバルがイギリスを革命から救ったと認めている）もやはり、「神と二人きりで共に過ごす親密な時」に重要な価値があることを知っていました。ウェスリーは、私達が皆見習うと良いレッスンを賢明に習得しました。彼は、朝、出来る限り早起きできるように、夜早く寝よう、自己訓練しました。ウェスリーが主と朝4時に出会っていたというその祈りのスタイル（膝突き台）でひざまずき、祈る機会が最近ありました！その部屋にあった彼の日記から次の言葉を読んだ時、私は心動かされました。「私はたった一人で座り…（中略）神だけがここにおられる。神の臨在の中で、私は神の書を開き読む。そして読んだことを私は教えるのだ。」

使徒ヨハネは、新生したクリスチャンを励まして、聖書の理解を助けてくれる人が周りにいなくても、神のみことばを通して神が心に触れてくださるには、聖霊で十分であると保証しました。

そして、彼は信者に向けてこのように記しました。

「あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません（全く誰からも、と言うのではなく、自薦の教師からは、という意味）。彼の油がすべてのことについて、あなたがたを教えるように、—その教えは真理であって、偽りではありません。—また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。」（第一ヨハネ2：27）

神の書物である聖書を読む時、聖霊の啓示に意識的に拠り頼むなら、聖霊はその聖書の真理を、あなたの心に生きたものとしてくださいます。

もしあなたが、豊かで満たされた「主と共に過ごす時」を常に持ちたい、と本当に望むなら、まず、静かな場所を見つけてください。そして聖書を開き、神と交わるために、特定の時間を設けてください。神と二人きりでそのような時間を過ごそうという展望は、喜びあふれる期待感でわくわくすることが多いでしょう。ですがその一方で、家族や仕事、他の様々な興味によって注意がそがれ、神と二人きりで過ごす為に、自ら退くこと自体が難しくなるような日もあるでしょう。主イエス・キリストの愛と知識において成長したいなら、そのような時にこそ、真の訓練が要求されるのです。よく覚えておいてください。なおざりにされた聖書は、聖書を持っていないのと同じほど役に立たないことを。

約束の地へ向かう途中のイスラエルの民は、肉体を支える糧として、神が素晴らしい力を持って与えてくださったマナを集めるために、毎日準備しなくてはなりません。これと同じように、私達が神のみことばを受け取る時も、自らを準備する必要があります。

第一に、聖書を開き、神と二人きりになる時、実際にひざまずくことが、あなたの助けになる場合があります。

第二に、永遠の光であられる神のもとに行く時はいつでも、神の聖なる臨在の中で、心をすっかりさらけ出す必要があります。神に隠すことなどできません。ですから、なぜ隠そうとするのでしょうか？

あなたが神と出会うために自分を整えたなら、聖書が光り輝くような現実として生きたものとなり、神のみことばがどのようにして頭から心に移動するかを体験し始めるでしょう。

### ひざまずいて

生きた交わりはおごり高ぶりの霊とは共存できない。

神への敬意と従順を、ひざまずきひれ伏す姿勢によって表現した多くの敬虔な人について、聖書から読むことができます。儀式的なクリスチャンやイスラム教徒らは、公の場でひざまずいて祈ることを習慣化させていますが、そのような姿勢が、必ずしも神との生きた交わりの表れとは限りません。しかし、永遠の神であり創造主なる神に近づく時、そのお方の前にひざまずくことで、私達の思いや心の態度が大いに助けられる場合があるのです。

ゲツセマネの園で、主、イエス・キリストが十字架にかかれる恐ろしい時間に近づいていた時、彼は弟子達が深く眠り込んでいるのを見ました。イエスは、彼らから離れた所に行き、「ひざまずいて、祈られました」（ルカ22：41）。その時、イエスは、ご自分の父なる神と二人きりでした。そこでイエスは、祈るためにひざまずきました。同じように、私達が友人や家族から離れて神と二人きりになる時、ひざまずいて祈ることで、神への敬意と神のみこころへの献身を、表現し易くなります。

使徒パウロは、その公のミニストリーが終わりに近づいていた時期、自分が基礎を固めたエペソの教会に愛情のある別れの言葉を送りました。聖書には、「パウロはひざまずき、みなの方とともに祈った」（使徒20：36）様子が描かれています。また別の時に海岸でも、パウロは、弟子達とその妻や子供達に、別れを告げています。聖書には「ともに海岸にひざまずいて祈って（から、私達は互いに別れを告げた。）」（使徒21：5）と記録されています。今日、多くの方は、女性や子供達が公共の場でひざまずいて祈っている光景は、通行人に誤解を与えるのではないかと考えるかもしれません。熱狂的な狂信者と責められることを恐れる時代に生きている私達もまた、プライベートな祈り会の中でも、打ち解けた気軽な快適さをしばしば選びがちです。しかし、パウロの時代の弟子達は、女性や子供達も含め、明らかに、ひざまずくことに何の抵抗もありませんでした。私達も、公の祈り会であろうと神と二人きりであろうと、ひざまずくことに抵抗を感じるべきではありません。

しかし覚えておくべきことは、祈る時に立っていようが座っていようが、もしくは歩いていようが、神との個人的なコミュニケーションの中で重要なのは、私達の「思いの姿勢・態度」なのです。そうです。聖書は、祈る時には正しい心構えを持たなくてはいけない、と語っています。

なぜなら「『神は高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。』ですから、神に従いなさい。そして悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。」（ヤコブ4：6～8）とあるからです。

身体的な問題があって、長時間ひざまずいて祈ることが不可能な方もおられるでしょう。嬉しいことに、神は、私達一人一人の心の中をご覧になられるお方です。神にとって、私達の心の姿勢は、体の姿勢よりも明らかに重要です。それでも、ひざまずくことが可能な人は、ひざまずくことが、ある事実の理解を磨く助けとなるでしょう。それは、私達が祈る時、私達は創造主であら

れるお方に「友」として語ることができるというものすごい特権を持っている、という事実の理解です。私達一人一人に向けられている大変重要な聖書の命令は、「主の御前でへりくだりなさい」というものです。そして、私達がこの命令に応える時、神は、「そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます」（ヤコブ4：10）という素晴らしい約束を続けてくださいます。

### 心をさらけだす

生きた交わりはいつも、神の恵み（あわれみ）の御座、すなわち新約用語では、イエスが死んでくださった十字架から始まる。

そうです。主イエスが十字架の上で死なれる前から、神はその素晴らしいあわれみと愛のうちに、罪の代価として、罪のないひとり子の死を受け入れることを選んでおられました。そうすることによって、不従順な人類が、再び神との交わりを新しく持つことができるようになるためです。私達の救い主の十字架よりはるか以前から、神は「あわれみの御座（英語訳）」で、ご自身が神の子供達と出会うと宣言されました。

「わたしはそこであなたと会見し、その「あわれみの御座」の上から、あなたに語ろう。」（出エジプト記25：22 英語訳<sup>4</sup>）

私達の罪のために払われた犠牲は、今日、歴史の一部となり、我々の知る事実となっています。主イエス・キリストの尊い血が、私達の身代わりに流されたので、そのイエスの死を通して、神と交わりを持つための新たな生きた道が与えられるようになりました。ですから私達は、人間の理解を超える神の愛に、このように喜び叫ぶことができます。

「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」（ヘブル4：16）

あわれみとは、私達が当然受けるに値するもの（罰、裁きなど）を、神が私達に与えないという意味です。恵みとは、本来、私達が受けるに値しないもの（赦し、永遠のいのちなど）を神が与えてくださる、という意味です。あわれみと恵みに富んだ神と共に交わりを持って歩めるとは、なんと素晴らしいことでしょう。

吹き荒れる全ての嵐から、  
苦悩の荒波の一つ一つから、のがれられる場所がある  
その、静かで確実な隠れ家は、  
神のあわれみの御座の下に見つけられる

---

<sup>4</sup> 日本語では、「贖（あがな）いのふた」（新改訳）、「贖罪所」（口語訳）と訳されています。文脈の流れから、ここでは、英語訳を採用しました。

イエスが、私達の頭に  
喜びの油を注がれた場所がある  
私にとって、甘美な場所  
それはイエスの血で買い戻された、あわれみの御座

霊が混じり合う場所がある  
友が「友」と交わりを持つ場  
遠く離れているけれど  
信仰によって彼らは出会う  
唯一共通の場、あわれみの御座の周りで

ああ、助けを求めてどこへ逃げることができただろうか  
試みられ、孤独で、うろたえていた時に、  
地獄の軍勢は、どのようにしたら打ち破れるのだろうか  
苦難の只中にいる聖徒には、あわれみの御座が用意されていないのだろうか

そこで、そこで、私達は鷲の翼に乗って駆け上る  
すると、時も感覚も、もはや全て存在しないかのようだ  
天が降りてきて、私達の魂を喜び迎え、  
そして栄光が、あわれみの御座に王冠をかける

H・ストーウェル

**生きた交わりは、汚れた良心とは共存できない。**

ある家族に生まれた男の子は、その後もずっと、その両親の息子であることに変わりはありません。「生まれなかった」ことにすることは決してできません。しかし、もしその子供が両親の言うことを聞かない子ならば、両親との自由で開かれた意思の疎通が壊されてしまう時があります。親子関係は残りますが、互いの親交は確かに断絶してしまいます！これは大変な悲劇です。

私達が、霊によって新しく生まれた瞬間、私達の天の父なる神との永遠の関係が設立されたことを知っていること、そして、その真理の中に浸ることは、素晴らしいことです。もし、本当に心の中に主イエス・キリストを受け入れたのなら、神の子供となったのであり、その神との親子関係は永遠に続きます。しかしながら、私達が罪を犯す時、私達の父との交わりは悲しくも断絶されてしまうのです。

私達は、神への不従順が原因で、かつて自分達が楽しんだ、人生の上に注がれる、神からの同じ祝福の微笑みを、もはや感じ取ることができなくなってしまうことがあります。神との間の透明

な交わりが壊される時、その期間が短いものであろうと、長く続くものであろうと、その原因は、神の御性質にあるのでもなく、また、神の私達への関心不足にあるのでもありません。親交の亀裂は、常に、私達の汚れた良心が原因で起こります。神との交わりがさえぎられる理由は、必ず私達の側にあります。「汚れた良心」

ジョン・バニヤンはかつて言いました。「罪は私から聖書を遠ざけ、聖書は私を罪から遠ざける」。人が聖霊を悲しませ、意図的に罪を抱いたままで生活を続けていると、その人は、神のみことばへの食欲を失ってしまいます。クリスチャンが神のみことばに向かい、神に期待する生き生きとした信仰を持つためには、清い良心が必要不可欠です。聖書はこう述べています。

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。」（ヘブル11：6）

もし私達が、強情に自分の罪を無視し続けるとしたら、聖書を読む時、私達の良心がもはや聖霊の御声を聞くように調整されていないので、信仰が消されてしまいます。「清い良心」

罪を犯した後、神との交わりを新たに回復するためには、私達の罪責感、罪の重荷を負った良心が清められる必要があります。良心が罪で汚れてしまったクリスチャンは、自分が「有罪である」という重荷を取り去るために、神の御前に罪を告白し、心をさらけ出す必要があるのです。使徒ヨハネはこう書いています。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」（第一ヨハネ1：9）

私の聖書のその個所には、F・W・クラムマッカーの祈りが記してあります。私は、自分の失敗と罪を意識する時、神のあわれみの御座の前で、それら特定の罪の名前を挙げるようにしています。そして、主への個人的な告白のベースとして、時にクラムマッカーの祈りを祈ります。

「ああ、主よ、私の神よ。私はあなたに対し、再び罪を犯し、嘆き悲しんでいます。私は自分自身を裁き、責めています。しかし、あなたのあわれみは大きく、私はその中に信頼をおきます。私の良心の上に、贖いの血を振り掛けてください。そして、あなたが耐え忍ばれた苦しみが、私のこの罪のためでもあったという事実を、信仰によって認められるようにしてください。」

私達は、罪を一度に一束にして犯すことはしないのに、どうして罪の赦しを一度の一般的な告白で片付けようとするのでしょうか？神に、私達の全ての罪を一塊として一気に赦していただこうとする行為は、真の悔い改めや、神のみこころの中に戻りたいという願いの表れというより、楽な抜け道を探そうとする心のおごりである場合が多いのです。このような全てを包含するような型

の告白は、罪意識を本当に明らかにするのにはあまり効果がありません。それが何であろうと、聖霊が罪であると知らせてくださる時、私達はその不従順の行為を、聖書が示す通りの呼び名で認識する必要があります。例えば、「罪のない嘘」ではなく「嘘」。「色々と想像する思い」ではなく「姦淫の思い」。「性急な言葉」ではなく「殺人的な憎しみで満たされた心」などです。

単なる罪意識ではなく、本当に有罪であることが私達の問題なので、神の臨在の光の中に入る時、心理学的な二枚舌を使った説明や、人間的な言い訳があってはなりません。神の御前にへりくだり、正直に自分の罪の名前を上げていく時、神は大きなあわれみによって、あなたの告白に応えてくださいます。これこそが、神の大いなる素晴らしい恵みなのです。

自分が犯してしまった悲劇的な罪を告白した後、ダビデは、神の豊かなあわれみ（詩篇51:1）に思いを馳せることで、喜びを得ました。詩篇51編の聖書の記録は、この砕かれ、心揺さぶられた人ダビデは、神に向かって正直な罪の告白をただけでなく、その悔い改めが本物だったことを示しています。もしあなたが悔い改める（神の道ではなく自分の道を取ってしまったことを認識し、神の純粋で聖なる道に戻りたいと願う）なら、そして自分が犯したことに気付いている罪をへりくだって正直に告白し、神の御前で具体的な呼び名で列挙するなら、あなたも神の豊かなあわれみを喜ぶでしょう。こうして初めて、あなたの良心が清められ、聖い神との交わりを再開することができるのです。

あなたの良心が、愛なる神のあわれみの行為によって清められた時、祈りの中で、新たな大胆さを発見するでしょう。

「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。…私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、…全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。」（ヘブル10:19、22）

そうです。神の御前での本物の大胆さは、清い良心から流れ出てくるのです。透明で真実に満ちた正直な心は、神との生きた交わりをフルに楽しむための実質的な必須条件である、大胆な信仰の型を解き放ちます。

自分の心が清いと知る時、過去の罪の卑屈な記憶は、もはやあなたの意識をかき乱せなくなります。もちろんサタンは、あなたをいつまでも責め続けようとするでしょう。しかしサタンの最も強力な攻撃をへし折るのは、彼に対するあなたの答えであり、あなたの罪責感に対する神の答えと同じであるべきです。すなわちそれは、尊いイエスの血潮の力です。ヨハネの黙示録には、神が既に赦された罪について、サタンによって責められた聖徒達が、尊い血の無敵の力を理解していたことが記されています。それは、彼らについてこう記しています。

「兄弟たちは、子羊の血…のゆえに彼（サタンー兄弟たちの告発者）に打ち勝った。」（ヨハネの黙示録12:11）

彼らは、清められた良心という祝福を満喫しただけでなく、もはやかき乱されることのない良心を維持する秘訣をも学んだのでした。ハレルヤ！

**生きた交わりは、誤った思い・考えとは共存できない。**

栄養を与えてくれるミルクである神のみことばを摂取したい、という欲求が欠けていることには、しばしば隠れた理由が存在します。熱のせいで食欲をなくした経験がありませんか。高熱がある時には、どんなにおいしいものも食欲をそそりません。病気の時には、いかに栄養価の高い食事でも気をそそらないのと同様に、もしも誤った思いや考えがあなたの霊的食欲を減少させているのなら、聖書はあなたにとって魅力を失ってしまいます。

ペテロは私達に、栄養を与える「みことばの乳」（第一ペテロ2：2）を慕い求めるように励ましていますが、まず、神の栄養を慕い求める心を消滅させてしまう様々な態度について警告しています。また、栄養価のある「神と共に過ごす時」を妨害するものへの対処法が、たった一つしかないことも、きっぱりと記録しています。健全な霊的食欲を減退させるものは、全て捨て去る必要があります。健全な食欲を回復するには、不健全な思いや考えは根本的に変えられなければなりません。つまり別の言い方をすると、「悔い改めなさい！」ということなのです。

「ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、…純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長…するためです。」（第一ペテロ2：1～2）

霊的な食欲を損なう、先述した霊的な病気が対処されない限り、私達が本当に「純粋なみことばの乳」を慕い求めることはないと、聖書は強調しています。これら霊的な病気を、一つずつ検証していきましょう。

「**悪意**」 他人からどう扱われたかに対し、赦せない霊を持ったままにいる、恨みや憤りの心です。

コーリー・テンブームは、レイブンスブルックのナチス強制収容所内にあった悪名高い殺人センターで、想像を絶する苦しみに耐えました。何よりも、彼女にとって恐ろしかったのは、非人間的で拷問にかけられているような強制収容所で、愛してやまない聖者のような姉の命が衰えていくのを、目の当たりにしなければならなかったことでした。彼女は後に、そのような極悪非道を行なった残忍な看守達を、真に赦せるようになった心の過程を、証しました。コーリー・テンブームは述べています。

「赦しとは、意志に基づく行為です。そして意志は、心の温度にかかわらず、行動することを選び取ることができます。」

もしあなたが、誰かを赦せない霊を抱いているのなら、たとえあなたが以前、その人からどんなにひどい扱いを受けて苦しんだとしても、あなたが赦さないでいることは、その人に害を与えるのではなく、あなたの霊的人生を必ず圧迫し、行き詰まらせてしまうでしょう！事実、相手を赦そうと決心するまで、あなたはその人に束縛され続けることになります。赦した後で初めて、あなたは主が教えてくださったとおりに祈ることができるのです。

「わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしてください。」（ルカ11：4口語訳）

自分の心に「悪意の（赦さない）霊」があることに気付いているなら、神と二人きりで過す時、その人（あるいはその人達）を赦すことを、どうぞ選び取ってください。そうすれば、あなたはその人達に対し、偽善のない神の愛を表現できるようになるでしょう！

「ごまかし」 自分の罪を告白する代わりに、失敗を隠したり、正当化したりすることです。正直に生きるのではなく、欺きの中に生きることです。

「偽善」 本当の自分とは違う印象を他人に与えたいと言うプライドから、実際の自分とは違う誰か、または何かであるようなふりをすることによって、自分自身を明らかに偽って表現することです。牧師や親や友達から、または職場などで認められたいという欲求が、全ての偽善の根本にあります。

「ねたみ」 他人が持っているものを欲しがり、他人の祝福に対し、本物の喜びをもって反応するのではなく、嫌疑を持って反応することです。

「悪口」 他人を傷つけたり中傷したりするために舌を使うこと、あるいは他の人の人格をおとしめるような言葉に耳を貸すことです。他の人の人生の罪を指摘することで、自分個人の罪悪を軽くしようと試みることです。

もし私達が、本当に、みことばによって養われたいと望むならば、これらのものは捨て去らなければなりません。新生児は授乳の時間が来た時に、命を与えるミルクを求めなさい、と説得される必要がありません。それと同じように、これらのものを取り除くなら、あなたも、聖書を開く機会があるたびごとに、乳飲み子のように、「純粋なみことばの乳を慕い求め、それによって成長する（第一ペテロ2：2）」ようになるでしょう。

**生きた交わりは、自分中心の生き方とは共存できない。**

長年日本に住んでいるある宣教師の女性から、最近、個人的な手紙をいただきました。彼女は、大抵の人達が近づけないような人達、例えば、政府の高官や外交関係者らといった、いわゆる社会的に地位の高い人達に宣教をしている方です。彼女はこのように書いていました。

『自己を否定し、日々、自分の十字架を背負いなさいという教えは、一体どこへ消えてしまったのでしょうか。私はクリスチャン生活に関する本を整理していて、あることに気付きました。過去20年以内に入手した書籍の中心的なテーマは、煮詰めれば、クリスチャン生活の改善を、「自分自身でしなさい」、というものです。しかし、私がクリスチャンになったばかりの当時の書籍は、自己を否定すること、十字架を日々背負うこと、聖い生活を送ること、キリストのうちにとどまること、私を通してキリストに生きていただくこと、などについて書かれていました。このような教えは、段々と無くなってしまっているのでしょうか。それとも、そう思うのは、私の単なる想像に過ぎないのでしょうか。』

これは、香港のある中国人指導者が意味したこととつながるかもしれません。彼は次のように書いています。「西側諸国では、あるいは概して自由な社会では、教会はイエスの復活の力強い勝利の方に共感する傾向がある。彼らは（主と）そのような関係を持ちたいのだ。彼らは、成功、繁栄、復活した御子イエスの良い事を熱望している。キリストの苦しみにあずかる者は少ない。しかしアジア諸国の教会では、特に、制限され、拘束されている状況が強い諸国においては、逆の傾向が観察できる。これらの信者達は、キリストの苦しみにあずかることに、より積極的だ。彼らにとっては、イエスの苦しみとの交わりは、大きな報いであり特権なのだ。」

### キリストの死に同化する

使徒パウロはこう祈りました。

「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、……たいのです。」（ピリピ3：10）

アモスの質問は、パウロによって表現された、この主イエスとの交わりを持つための高貴な野望が意味したことを、私達が理解する助けになります。

「ふたりの者は、合意することなしに、一緒に歩めるだろうか」（アモス書3：3 英語訳より）

もし私達が、イエスの復活の力にあずかって歩みたいと望むなら、私達は、イエスの苦しみにあずかる交わりにあずかることにも合意するべきです。なぜなら半分だけの合意は、全く合意していないのと同じだからです！

パウロはまた別の個所で、パウロの使徒としての権威を見下し始めた回心者達に向け、手紙を書いた時、報われない愛に伴う、大きな痛みについて指摘しています。

「ですから、私はあなたがたのたましいのためには、大いに喜んで財を費やし、また私自身を使い尽くしましょう。私あなたがたを愛すれば愛するほど、私はいよいよ愛されなくなるのでしょうか。」（第二コリント12：15）

さらに別の個所では、パウロは本物の愛を分析し、強調してこのように宣言しました。

「愛は寛容であり、…自分の利益を求めず（英語訳では、愛は長い間苦しみ、…自分のことを求めず）」（第一コリント13：4～5）

そのような純粋な愛は、忍耐強く自分本意ではなく、人として現れた主イエス・キリストの内に、見事に人格化されました。主イエス・キリストは、愛のない世界に来てくださった時、人の姿をとって、神の愛を完璧に示してくださいました。イエスの行ない、イエスの言葉、イエスの心の奥の思い、イエスの父なる神のみこころへの全身全霊の献身—これら全てが、決して自らを喜ばすのではない、絶妙な愛の絵を描きました。つまり、お生まれになった瞬間から、十字架にかかられた瞬間に至るまで、主イエスは、完璧な人間であるという有利な立場を、ご自身の個人的な利益を求めるために活用することを、愛によって拒み続けました。

主イエスは、地上におられた約33年の生涯の間、絶えることなく、他人の益のために「ご自分のいのちを捨て」（第一ヨハネ3：16）続けてくださいました。そして、十字架の苦しみに直面した時、「この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を最後まで（残るところなく）示された」（ヨハネ13：1）様子を、聖書から知ることができます。

そうです。イエスの愛は、確かに、長く苦しんだ（忍耐した）のです。もし私達が、私達の救い主と「真に親しい交わり」を持ちたいならば、自分の心を探り、自問すべき質問があります。

「私は、神が私に与えてくださった人生の有利な立場を、自分自身の利益や昇進のために利用するのか。それとも、真の愛のうちに、たとえその過程で苦しみが伴うとしても、他の人のために自分の命を捨てる準備ができているだろうか。」

そうです。神の愛は、現代の「まず私が先」という世代とは全く対象的です。「まず私が先」という世代の考えは、自己愛は美德であり、自分の権利は、他人への福祉事業よりも重要だ、と大胆にも宣言しています。聖書は、この自己礼拝こそが、終わりの時代のしるしの一つであると示しています。「そのときに人々は、自分を愛する者、…神よりも快樂を愛する者になり」（第二テモテ3：2、4）

ですからアレクサンダー・マクラレンが、「崇高な霊的美しさへの小道は、傷を負った自己愛の血塗られた足跡で汚されてしまった」と述べたのも、驚くには及びません。

罪は、思いに表れるか、行ないに表れるかにかかわらず、人間が受け継いだ自意識と自己中心という性質の証拠となっています。オズワルド・チェンバースは、人間の自己中心の傾向を「私のための私の権利の私による主張」と定義し、この自分本意な主張が「尊敬すべき道徳性の形をと

って実現されようが、憎むべき不道德の形をとって実現されようが、等しく危険である」と、断言しています。盗みや搾取といった利己主義や無慈悲を嘆くことは簡単ですが、人の罪深い自己中心性がさらに微妙な方法で表現され得ることに気付いておく必要があります。

驚くべきからず、あらゆる家庭内の問題や社会的緊張の中心にあるもの、そして、多くの教会の問題の中心でさえもが、大抵は知らぬ間にしている「私のための私の権利の私による主張」です。つまり、私の時間、私のお金、私のやり方、私の欲求、私の意志、などを、知らぬ間に主張しているのです。実に、自分自身のことを求めない神の愛を反映しないことは、全て、人間が受け継いでいる自己中心性の表れなのです。

### 天国の視点

自分の自己中心性を本当に認識する唯一の方法は、神の視点から自分自身を見ることです。J・B・フィリップスは、コロサイの教会の人々のためのパウロの祈りを訳した「Letters to Young Churches（若い諸教会への手紙）」の中で、こう記しています。

「私たちは神にお願いします。神が、あなたたちに霊的な洞察力と理解力を与えてくださり、あなたたちが**神の視点**から物事を見るようになるように。」（コロサイ1：9 英語訳より）

パウロの例にならい、神に私達の霊的な目を開いてくださるようにと祈って初めて、私達は、自分個人の人生の「本当の」状況を、自己中心的な存在である自分の目を通してではなく、神の天国の視点から見るができるようになります。こうして初めて、神の霊的プリズムを通し、人生の現実を直視することができるのです。

ドロシーと私の旧友に、サイレンス婦人と言う方がいます。彼女はある晩、祈りをもって従順に、天国の視点から、家族の危機に対応したため、非常に大きな慰めを受けることができました。彼女は深夜二時に、警察からの電話で起こされました。「今晚あなたの車を運転していたのが誰であるか、ご存知でしょうか」との警察の質問に、彼女は不安そうに答えました。「ええ、私の二人の息子が、若者のためのバイブル・コンファレンスから帰宅する途中で、運転しているはずで」と。すると、「実は、悲しいお知らせがあります。運転していた人物が居眠りをしてしまい、車が道沿いの木に巻かれた形になりました。運転席にいた方は亡くなり、同乗していた別の若者も、生存の望みがほとんどありません！」という答えが返ってきました。子供達への優しい愛で、いつも心を溢れさせていた母親はうろたえ、ショッキングなニュースに呆然としました。

受話器を置くやいなや、サイレンス婦人は、天の父に叫びました。「ああ、神様、こんな時、母親というものはどうしたら良いのでしょうか？」幸いにも、婦人は聖書的に考え、祈ることを習得していました。後に婦人が話してくれたのですが、その時、彼女が唯一思い巡らすことができたのは「すべての事について、感謝しなさい」（第一テサロニケ5：18）という聖書のみことばだ

ったそうです。そこで婦人は続けて尋ねました。「でも主よ、あなたは私の心が今、感謝していないをご存知です。心は冷たく、ショックを覚え、空っぽです。ですがこの恐ろしい夜、あなたのみことばに従います。ですからそうする時、お願いですから、私の心に奇蹟を起こしてください。わたしがあなたに従い、あなたに感謝を捧げる時、あなたが私の感謝を本物にしてください。なぜなら、この悲しみの時に、感謝の気持ちなど全く感じないからです」。このように、サイレンス婦人は信仰を働かせ、祈り始めました。

心優しい母親であるサイレンス婦人は、さらに話してくれました。彼女が最初に「お父様、あなたがどなたであるかという故に、感謝します」と祈った時点では、彼女の心はまだ冷たく空虚なままであったそうです。しかし、感謝の祈りを忠実に繰り返し続けているうちに、聖霊が素晴らしい奇蹟を行なってくださいました！聖霊は、彼女の心を慰めと本物の感謝で満たしてくださいましたのです。そうです。その長く暗い夜、神の慰め主、聖霊が、サイレンス婦人の信仰と従順に応じてくださったのです。聖霊は、彼女と彼女の家族に対する永遠に変わる事のない神の愛について、婦人に確信を与えてくださったそうです。夜が明け始める頃、彼女の目にはまだ涙が残っていたことは疑いの余地もありませんでしたが、言葉に表すことのできない神の平安と慰めが心を支配している現実を、彼女は同時に経験していたのです。

これは、神が嘆き悲しんでいる母親を、ご自身の永遠の愛の胸元に引き寄せてくださった、神の恵みの素晴らしい証です。このような暗く悲しい夜、人知をはるかに超えた神の平安が、魂に洪水のように押し寄せてきた様子を、サイレンス婦人は深く静かな確信を持って、語ってくれました。サイレンス婦人が主との歩みの中で証明したように、問題が起こった時、人間の視点と天の視点との間には、完全な違いがあります。

あなたが神との親密な交わりを楽しむようになればなるほど、信仰と感謝は、互いにいつも関連していることがわかるようになるでしょう。純粋な信仰による感謝があなたの心を満たす時、神は、あなたの変わりゆく人生の様々な状況を―それが表向きに良いことであろうと悪いことであろうと、神の視点から見られるようにしてくださいます。そのような天の視点から、神は痛みを感じているあなたの心に、「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださる」（ローマ8：28）ことを、必ず確信させてくださいます。このみことばの慰めは、ただやたらに引用されるだけの、空虚で冷たい真実にとどまりません。私達一人一人の心の中で、驚くべき現実として鳴り響くように、神はこの素晴らしい約束を与えてくださいました。ですから、あなたがそう感じる事ができる時、主を賛美しましょう！また、そう感じる事ができない時にも、主を賛美しましょう！そして、そう感じられるまで、主を賛美し続けましょう！あなたの人生でも私の人生においても、主を賛美するのにふさわしくない状況などは存在しません。

最近、ドロシーと私は、中東の制限された状況のもとで、キリストのために、忠実で実り多い働きを行ってきた長期宣教師の方から、一通の手紙を受け取りました。手紙の中で、スタンは、

「私は、自分の快適さのためでなく、キリストの人格に基づいて、主をほめたたえるべきですし、またそうできるのです。」と書いてきました。赦しに関するコーリー・テンプームの言葉を拡大すれば、「主をほめたたえることは、意志に基づいた行為だと言えますから、意志は、心の温度にかかわらず、常に主をほめたたえることを選択できます！」と、言えるでしょう。そして、私達が主をほめたたえることを選び取る時、神は、神の平安という内なる輝きと、決して変わらない神の愛への永続的な確信を、私達の状況がどうであろうとも、必ず与えてくださいます。

私達は、「すべてのことのために、神に感謝しなさい」と命じられているのではないことに注意してください。「すべてのことにおいて、感謝しなさい」と教えられているのです。

**天国の視点を認識する時に溢れ出る本物の感謝は、嘆き悲しみから自己憐憫を切り離す、信仰の一つの要素です。**

覚えておいてください。これは、教会にしようと、病院にしようと、同じ真理です！人生の嵐が押し寄せる時、「なんて可哀相な私！」という自己憐憫の態度を、この地上に根ざした心は簡単に反映しがちですが、キリストを中心にする心は、それでもなお、主をほめたたえるのです。

「私達のうちのほとんどは、痛みにつかまれた最初の時点で、倒れ、崩れ落ちる。私達は神の目的への入口で座り込み、自己憐憫の中におおわれてしまう。いわゆるクリスチャン的同情でさえも、その過程を速めるだけに過ぎない。だが神は、その大いなる愛のゆえに、そうはなさらない。神は、御子の刺し通された手であなたをつかまれ、『私との交わりの中に入りなさい。起き上がって輝きなさい』と言われる。もし、砕かれた心を通して、神がご自身のご計画をこの世で成し遂げられるのなら、神があなたの心を砕いてくださったことを、神に感謝しなさい」（オズワルド・チェンバーズ著「いと高き方のもとに（My Utmost for His Highest）」からの意識）

私達の人生の中の「すべてのこと」の背後にある、神の愛の理由に気付いてください。次の聖句そのものが、私達の人生が目的を持っていることを明らかにしています。すなわち「御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められた」（ローマ8：29）のです。

そうです。もし私達が、自分自身から解放される素晴らしい自由を、神がどのように私達に提供して下さったかを理解したいのなら、自分の人生を天国の視点から見ることを学ぶ必要があります。

自己中心の人生に対する神の解決策は、自己改善や教育ではなく、**死です！**地上で生活する間、自分本意に生きようとする方向へと引っ張る「引力」に直面する時、本物の信仰は、神の永遠の真理の中で喜ぶことを可能にします。「あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです」（コロサイ3：3）

私達は、キリストと共に神のうちに隠されているので、死、埋葬、復活（ローマ6：2～4）の過程を通し、自分中心の関心事と共に、私達の世俗的な存在から、既に根本的に切り離されているのです。今や、私達は十字架の復活の側にある、人生に対する新しい視点を楽しむことができるのです！

私はキリストにあって死んで、キリストにあってよみがえる  
キリストにあって、私は敵に打ち勝ち  
キリストにあって、私は天に座を設ける  
そして、地獄の敗北に、天は喜びの声を挙げる

本当のクリスチャンは、古い創造に死んで、神の新しい創造の一部となったのです。これが、私達の救いが意味することなのです。

「キリストと共に十字架につけられた」という自分の立場を理解した時、地上での生活は、自己中心的存在から、キリスト中心の経験に変えられていきます。しかし、そのような主との親しい交わりを常に楽しむためには、地上の問題とも言える自己中心の人生に対し、どのように継続的に対処していくべきかを知っておかなければなりません！

### 地上の問題

私達は今、自分の心を探る質問をする必要があります。「地上での私の人生は、本当にキリスト中心だろうか、それともまだ自分中心だろうか。」

自己中心の人生は、明らかに、自分の安全、自分のエゴ、自分の快適さ、自分の楽しみを脅かす人に対して敵意を持ったり、そのような状況に遭うとすぐに怒ったりします。G・キャンベル・モーガンは、このように述べています。「自己中心は罪の本質、敵意の中心、地獄を造り上げる根本的要素だ」（『ホセア：神の心と聖さ、Hosea: The Heart and Holiness of God』より）

私はある晩の祈り会で、一人の女性が、並外れた真剣さで祈っているのに気付きました。女性は明らかに、人生を変える新たな方法で、神に出会っていたのです。彼女は「主イエス様、あなたの愛の腕を私に投げかけ、十字架にて抱きかかえ、死に至るまで愛してください。生きているのはもはや私ではなく、私の内に生きておられるキリストであってほしいのです！」と、祈りました。彼女の祈りは私に大きな感動を与えました。

この女性は、自分がキリストと共に天に住むようになるために、死と復活の過程を通して既に開放されていると知っていましたが、同時に、自分の肉体はまだ本当にこの世にあることを良く認識していました。彼女はこう祈った時、明らかに、この地上での彼女の肉体の自己中心的な言動に対し、神の解決策を求めていたのです。このような意義深い祈りは、確かに、彼女が主との更

に親密な交わりを熱望していることを表していました。後に私がこの祈りを振り返ってみると、このような心の苦悩を伴った懇願の祈りが聖書的だということは、パウロの書簡から分かります。「もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。」（ローマ8：13）

読者によっては、次の考えが、この節の重要性を深く瞑想するのに役立つと感ずるかもしれません。また、次の段落以降に紹介されている例が、もっと实际的で有益だと思われる人もいるでしょう。ギリシャ語に慣れ親しんでいる人は、このみことばの中に見出される、人を自由にする真理を、更によく理解するヒントを与えてくれます。

「もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。」（ローマ8：13）

まず第一に、原語のギリシャ語では、「**あなたがた**」ということばが「**殺す**」という文章の主語であり、（自らが積極的に行なう行動として）能動態で書かれています。

聖書的事実：もし私が自分のからだの「行ない」（私の自己中心的な人生）から解放されるといふならば、私は積極的に、そして、肯定的に、神に協力しなければなりません。

第二に、この節は、**聖霊**（＝神の執行者）を**通して**、神ご自身が、私達の自分勝手にこの世的な**行ない**に勝利できるように備えてくださる、ということも私達に語っています。

聖書的事実：私はこの過程に、祈りながら、積極的に関与すべきなのですが、自分勝手な行ないを死に至らせることは、自分自身ではできません！この世にいる間、**私を、自分中心の行ないから徹底的に断ち切る**ことができるのは、**聖霊**だけなのです。

第三に、この節が**現在時制**で書かれていることを観察できるのも興味深いことです。実際には、この時制の使用は、私が祈りつつ積極的に神に協力することを、**継続的に**実行しなければならないことを示しています。

聖書的事実：クリスチャンが初めて「自分の肉・自分のためのいのちに死ぬるように」と聖霊に頼み求めることは、人生を変えてしまうような経験であり得ますが、それは一度切りで終わりというものではありません。自分の肉が醜い頭を持ち上げる時、私達は自分達の役割として、私達を自由にくださる聖霊の働きに協力するために、いつでも祈らなくてはなりません。自分の肉を死に至らせる聖霊の働きに常に続けて依存していくと、自分勝手な行ないが、やがて確かに、死に至るようになるのです。

神は、私達がこの信仰の態度を継続的に持ち、常に実行し、それがいつもの経験となるように意図しておられます！

以上のことをさらに分かり易くするため、私達が法廷にいると想像してみましょう。法廷では、一人の男が殺人容疑で審理されているとします。証拠が厳密に調査され、その男の有罪が立証されたとします。そして、裁判官は今、刑を宣告する厳粛な責任を持っています。法廷中を静けさが走り抜け、裁判官が立ち上がり、「この男は殺人罪で有罪と判定されたので、死刑に処する。」と宣告します。

重々しい宣告と共に、裁判官の責務は完了されました。ですが、もし裁判官が、その死刑宣告を自分自身で執行しようとして、自分の席の下からピストルを取り出し、自ら被告人を銃殺刑に処したなら、どうでしょう。今度は、裁判官自身も、殺人罪で有罪になってしまいます！

死刑宣告後、裁判官にできることは、その州の死刑執行人に受刑者を引き渡すことです。

自分の肉についてもこれと同じことが言えます。自分の肉・自分のための人生の身勝手さを認識し、告白すること以外、何もできません。法廷の裁判官のように、私達は、全ての自己中心的な行為に対し、死刑宣告を与えなくてはなりません。しかし、裁判官自らが殺人者の命を決して断つことができないように、自分中心の状態の中にいる私達もまた、肉の自分の行ないを殺す力を持っていません。ですが、神に感謝しましょう！神は、神聖なる死刑執行人である聖霊を、私達に与えてくださいました。この聖霊こそが、私達の内に潜在する自己中心を、機能できなくさせる力を持たれるお方です。

そうです。私達は、神の恵みにより、「聖霊を通して」、「からだの行ない」を死に渡すことができるようになったのです。私達がこの素晴らしい備えを、継続的かつ意図的に利用する時、本当にキリスト中心の人生がもたらす、解放された喜びを経験するようになります。

聖書の明確な教えや、祈り会でその婦人のくちびるからこぼれた熱心な祈りの感動的なレッスンのおかげで、私もまた、同じ調子で何度も祈りました。

「主よ、聖霊によって、私を十字架に包み込み、自己中心の自分に死ねるよう、助けてください。生きているのは、もはや私ではなく、私のうちに生きておられるキリストであってほしいのです！」

神のみことばで養われ、成長する最終目的が、自己満足できる人生へと卒業するためであると考えがちです。しかし、実際はそうではありません！なぜ、旧約聖書の祭司は、自分の群れから最高の羊を養い、その世話に務めたのでしょうか。最も優れた羊の見本として展示するためだったのでしょうか。事実はこれと全く逆です。ウィリアム・スティルが指摘しているように、群れの最良の羊は、いけにえとしてほふられるために、必要だったのです！

あまりにも頻繁に、クリスチャンは、福音伝道主義的聴衆を前に、音楽的才能・雄弁的才能を用いて金メダリストになることが、神に喜ばれるといった、間違った結論に達しがちです！神が愛をもって、みことばから私達を養ってくださる時、神の目的は、演壇で私達の見栄えを良くするためではなく、私達の人生の全ての局面が、神のいけにえの祭壇の上に置かれるようになるためなのです。神が神で

あるところの全てに対し、私達が生き始めるには、まず、自分自身の全ての局面で、死ぬ必要があります。例えば、自己憐憫、自信過剰、自己中心、自分を喜ばせれば良いという気持ち、自己弁護、などなど、古い自分のリストは、どんどん続きます。\*

使徒パウロは心を痛め、コロサイの教会を気にかけてくれる人は、テモテの他に誰もいない、と述べています。その町の多くのクリスチャンは、愛が「自分の利益を求めない」ことを、自分自身の経験を通して知ってはいませんでした。パウロがそのことを悲しく思い起こしている様子が、聖書から読み取れます。

「だれもみな自分自身のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません。」（ピリピ2：21）

今日、世界のあちこちで苦しんでいる教会のことを**本当に**気にかけているクリスチャンはどこにいますでしょうか。私達は、気にかけてくれる人が一人もいない人達を愛する時間が全くないほどに、自分の生活に捕らわれてしまっているのでしょうか。私達は、神の愛だけが、自分の利益を求めず、長く苦しむ（忍耐する）愛である、ということ覚えていなければなりません。例えば、酔がいっぱい入ったコップは、まずその苦さを空にしなければ、甘くておいしいオレンジジュースを受ける器にはなれません。同様に、私達の人生が、神の愛で満たされる前に、まず、自分中心の人生は死に渡されなくてはなりません。これらはいずれも自力で行なうことでなく、私達の人生における、聖霊の恵み深い働きの一部です。神に感謝し、神をほめたたえましょう。

自分中心の行ないを根本的に切断することによって死に至らし、その代わりに、神の愛で満ちあふれるほどまでに満たしてください、と継続的に聖霊にお願いすることが、クリスチャン全員にとって、なんと必要なことでしょうか。「なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」（ローマ5：5）

「神と共に過ごす親密な時」に、これらの真理があなたの心を揺さぶり始める時、聖霊が、神のみことばから新鮮な真理を明かしてください。

全てのクリスチャンは「神への借りはいつも少なくしておく<sup>5</sup>（神への申し開きを常に保つ）」べきだ、とよく言われてきました。日々の生活の中に、私達の神意識や神との親しい交わりを抑制させるものが何も無いよう、**継続的に**、確かめていきましょう。

---

（脚注）\* 聖書では、死というのは決して消滅を意味せず、分離を意味します。例えば、肉体的死は肉体から魂が離れることであり、永遠の死とは神から魂が永遠に離れることです。同じような意味において、古い自己中心的な生き方に対する死とは、人間のふるまいの型から、自己中心的な行ないを継続的に切り離すことなのです。これまで私達が見てきたように、これは神の聖霊の力によってのみ達成することができるのです。

---

<sup>5</sup> 訳者注。罪をすぐに神に告白し、告白しないままの罪を多く持たない、という意味。

霊の健康診断

**Spiritual Check-up**

- 1 主の御前に出る時、自分がまだ悔い改めていない、告白していない罪があることに気付いているだろうか。
- 2 私には、以下のような問題があるだろうか。
  - 人を赦せない気持ちがあるだろうか。
  - 自分が好まない人を愛することが難しいだろうか？
  - 良い印象を与えるために、他人を欺いているだろうか。
  - 他人の賜物や所有物を、うらやんだり欲しがったりしているだろうか。
  - 不満をつぶやいたり、批判したりしているだろうか。
- 3 良心を清めていただいて、神に期待する信仰を働かせることができるだろうか。
- 4 この地上での私の人生は、本当にキリスト中心だろうか。それとも、まだ自分中心だろうか。

さて、ここで再び、ウィリアム・マクラーディー・バンティングの祈り(28ページ)に戻りましょう。自分でもその祈りを、静かによく考えて、祈ってみましょう。

---

みことばの光の内に主と共に歩む時、  
主は、私達の道に何という栄光を輝かせてくださることだろう！  
主の良きみこころを行なう間、主は私達とつながってくださる  
主に信頼して従う者全てと共に

起き上がる影はなく、空には雲一つない  
主の微笑みがそれをすばやく吹き飛ばされるから  
疑いも恐れも、ため息も涙も、  
主に信頼して従っている間は、私達と共にいることはできない

しかし、私達は主の愛の喜びを証明することは決してできない  
全てを祭壇に置くまでは  
主が示される好意も、主が与えてくださる喜びも、  
主に信頼して従う者のものだから

主との甘い交わりの中で、私達は、主の足元に座る  
また道を進む時、主の傍らを歩く  
主が語られることを行ない  
主が遣わされる所に行く  
決して恐れるな、ただ、信頼して、従え

ジョン・H・サミス

---

## 第四章 神と共に過ごす時

考えてみれば、まず一日の初めに、聖書と心を開いて、主イエス・キリストの十分な備えに頼らずに、その日の挑戦に十分立ち向かえると思ってしまうこと以上に、おごりを表現する方法は、あまりないのではないのでしょうか。

ダビデは、霊的に実りある人生を発達させる、芽を出す種を認識しました。彼は、神のみことばを思い巡らす人は、時が来ると実をならせる人であり、「その人は、何をしても栄える」（詩篇 1：3）と述べています。

神が栄えると約束されているのは、どのような人でしょうか。それは「主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを思い巡らす（口ずさむ）」（詩篇 1：2）人です。

主イエスを、心と人生に受け入れたばかりの新しいクリスチャンに、私は時々、こう言うことがあります。「一日一章で、悪魔を寄せ付けないでおけます！」今日読むことになっている聖書の個所を読みましょう。そして戻って、それをもう一度読んでみてください。そうすることによって、一節ずつ**思い巡らす**ことができるからです。牧場で草をはむ牛を見たことがあるのでしょうか。牛は、草を嚙んで飲み込んだ後、また嚙むために口に戻します。全ての栄養素が抽出されるまで、何度もこれを繰り返すのです。これは、本当に神のみことばを思い巡らすとは、一体どういうことであるかを表現した良い例です！

私は、70歳の誕生日にキリストに回心したある男性を知っています。彼は当時、聖書についてほとんど何も知らず、キリストにある新しい人生を発見する以前は、教会に行ったことさえありませんでした。また学問を追究することもなかったため、学術的な技能に長けていた訳でもありませんでした。しかし彼は、新生体験をした後、主イエス・キリストの恵みと愛において、主を知る知識において成長したいというのが彼の願いであったので、83歳で天に召されるまでに、聖書を13回通読したそうです。年齢や学歴にかかわらず、あなたも、毎日、聖書を読むことができるのです。

開いた聖書、清い心、へりくだった霊、そして、ダビデの祈り—「私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。」（詩篇 119：18）は、主との実りある時への道を整えるでしょう。

既に述べたように、ある人々は、「主と共に過ごす時」が、本当には一方通行の会話ではなく、両者間の会話であることがわかっていません。私達が読んでいる聖書のみことばを思い巡らす時、神は私達に語りかけてくださいます。残念なことに、神が私達の心に語りかけてくださるために愛を持って下って来てくださった後で、私達が祈りによって神に応答することを神が待っておら

れることを、多くの人が理解していないのです。神のみことばを**思い巡らす時**、そのみことばが、私達の**考え**の一部になります。祈りつつ、神のみことばを**行なう時**、それは私達の**生活**の一部になるのです。

あなたは今、「聖書を読む時、神はどのようにして語りかけてくださるのだろう」と思っているかもしれません。私個人としては、一節ごとに、頭の中で特定の質問をしながら読むことが、大変役立つと分かりました。中には、何年も前、こういう質問をすると良いと教えられた質問も含まれています。祈りを通して主と交わる時、私はこれらの質問を、私を導くガイドとしています。神のみことばを思い巡らす時、そのような方法で考えが導かれるようにすることを、あなたにもお勧めします。私は過去何年間もこれらの質問に頼ってきたため、神と聖書と共に過ごす時、これらの質問をするのが第二の本能であるかのようです。

これから質問事項を紹介しますが、ある質問は、従順の行為が要求されると気付くでしょう。また、ある質問は、信仰による応答を要します。またあるものは、主の御前で賛美し、ほめたたえる結果へとあなたを導くでしょう。そして、敵である悪魔の巧妙なやり口を見極めるための助けになり、どうしたらキリストの勝利が自分の勝利になり得るかを理解できるようにさせる質問もあります。

### 従順の行為

私達が聖書を読む時、聖霊の御声にしっかり調子を合わせたいならば、長時間、罪を告白せずに神に借りを作ってはいけない（神への申し開きを常に保つ）ことを、私達は既に学びました。しかし、聖霊が私達の心に語りかけてくださるたびに、語られていることに従うことも必要です。

聖書を読みながら神と共に過ごす時、以下のように質問すると良いでしょう。

- この節には、従うべき命令が含まれているだろうか。
- この節には、避けるべき罪が示されているだろうか。
- この節には、従うべき良い模範が書かれているだろうか。
- この節には、避けるべき悪い見本があるだろうか。

このような質問が、どのように主との個人的な双方の関係へとあなたを引き寄せるかわかりませんか。こう質問する時、あなたは確かに、自分が今読んだ真理について考えるだけで終わりにすることはできません。神の臨在の中で、これらの質問に答えようとするなら、神があなたに言われた事に対し、心の中で積極的に応答する必要があることがわかるでしょう。

あなたが神のみことばを読む時、聖霊ご自身があなたと共にいてくださることを、いつも覚えて

いてください。そして、もしあなたが聖霊に頼るなら、聖霊が神のみことばを、あなたの頭から30センチほど押し下げて、あなたの心へと運んでくださいます！

私達は皆、神の命令への不従順と、神への反逆に向かって走っている、危険な時代に生きています。キリストを拒絶する世代に影響を与えるためには、私達が心を尽くし、神に従順でなければなりません。神が示してくださる真理に、私達が**従い**始める時に初めて、私達を通して神の力が神を必要としている世に流れ出るために、私達は開け放たれるのです。

最近、オズワルド・チェンバーズの「いと高き方のもとに (My Utmost for His Highest)」という本を、夫婦で読みました。以下は私達が読んだある個所を、意識したものです。

「神があなたに示されることで、神に従いなさい。そうすれば、次のステップが直ちに開かれる。……『これに関しては、いつか分かる日が来るだろう！』と言うかもしれない。でも、今、分かることができるのだ。特別な洞察を与えるのは、**勉強ではなく、従順である**。従順の最も小さな断片でさえ、天の窓を開き、最も深淵な神の真理を、あなたの前に即座にもたらすことができる。だが神は、あなたが既に知っていることに従うまで、ご自身に関する更なる真理を決して表してはくださらない。」

二人の偉大な宣教の先駆者、チャールズ・スタッドとハドソン・テラーが、ある晩、屋根裏部屋を一緒に使っていたそうです。翌朝早く、テラーが起きると、ルームメイトが聖書を開き、心を注ぎ出している姿が、ちらつくろうそくに照らし出されていました。テラーが、どのくらいそこでそうしていたのかと尋ねると、スタッドはこう告白したそうです。

「真夜中に、『もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずで』(ヨハネ14:15)という主イエスの言葉が心に浮かんで目が覚めたんだ。自分は完全な従順によって、主イエスへの愛を証明してきただろうかと、自問してみた。聖書に手を延ばし、福音書を読みながら、残りの夜を過ごしたんだ。福音書から、主が弟子達に与えたあらゆる命令を捜した。神の恵みによって従順でいられた個所には、その命令に検査済みの印を付け、『ハレルヤ！』と書き込んだ。従えなかった命令に関しては、その罪を告白し、神の恵みによって、主に従うように、もう一度自分を主に捧げ直した。そうすることによって、自分が本当に主を愛していることを証明したのだよ。」

愛する読者の皆さん。皆さんも、本当に「神のみことばの光のうちに主と共に歩む」のなら、「信頼して従う」以外には、他に道がないことを証して、讚美歌の作者に賛同するようになるでしょう！

## 信仰の応答

聖書は、神への信仰を建て上げる建設者です！そして、私達が信仰のうちに建て上げられる時、それは主イエス・キリストに頼り、主イエス・キリストに従うことなのですが、その時に、「私にはできないが、主にはできる！」と断言できるようになるのです。

主と共に過ごす時、聖書を読みながら、以下の質問をすることは、あなたの益となるでしょう。

- この節には、宣言すべき約束が含まれているか。
- この節には、注意すべき警告が書かれているか。

聖書は約束であふれています。私達が神のみことばに思いを巡らす時、神の約束が真実であると宣言することが必要です。しかし同時に、神の厳粛な警告も観察しなければなりません。神の約束ばかり聞いて、神の警告を無視したまましていると、「信仰によって生きる」のではなく、「思い込みによって死ぬ」こととなります！

あなたが日々聖書を読む時、神の約束全てに気付き、その一つ一つを自身のものとして宣言してください。神の約束を自分のものにしていく時、一つ一つの新たな従順の一步を、あなた自身の個人的な経験という現実の中へと踏み出すために必要なのは、それをできるようにさせる主イエス・キリストの力です。

神の約束は、神と共に歩む中で「生きた」真理になるようにと、あなたに与えられているのです。これらの約束をあなたが掴む時、信仰が継続的に強められていきます。なぜなら、聖書が「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」（ローマ10：17）と教えているからです。

「信仰の逆は何だろう」と考えたことがありますか。その答えは、思ったより簡単で単純なものではありません。信仰の反対は不信仰であると言うことは、この質問が本当に意味していることから避けています。いのちを与えてくれる三人の「いところ」とも言える、次の三要素を想像してみてください。一番目が「信仰」、二番目が「依存」、三番目が「へりくだり」です。それでは今、死をもたらす三人の「いところ」を考えてみましょう。一番目が「不信仰」、次が「独立心」、三番目が「プライド」です。

**信仰の人**とは、自分では決してできないことを行なうために、主イエス・キリストに依存し、頼る人のことです。本物の信仰を持つ人は、聖書を読む時、決して取り消されない神の約束に気付き、それを個人的に自分のものとしていきます。

主イエスは、弟子達にこう語られました。「わたしを離れては、あなたがたは何もすることがで

きないからです。」（ヨハネ15：5）そうです。人が、主の備えの力を通して、何か霊的に価値あることをするために主に信頼できるようになる前に、まずその人は、自分自身の力では、永遠に価値あることを何もできないと納得しなければなりません。このような主に依存する信仰は、へりくだった心にのみ生じるのです。そのような人は、使徒パウロが言ったように、「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。（ピリピ4：13）」と行うことができるでしょう。

一方、**不信仰**の人は、自分自身を十分に独立した者であるとみなし、自信に満ちているので、自分には神の助けなど必要ない、と信じている人です。悲しいことに、今日、自分の救いのために、主イエス・キリストに頼らないという人が、何百万人といえます。それと同じくらい悲しい事実は、内住されるキリストの力に頼らずにクリスチャン生活を送ろうとするクリスチャンが多いことです。人間の独立心や自立心は、それがどんな形であろうとも、プライドと譲らない心から生まれるのです。

ですから、信仰の逆はプライド、不信仰の反対はへりくだりと云えます。世の中に広く普及して受け入れられている考え方にもかかわらず、自信と自立心というのは、信仰の分量に反して、心に浸透して来るのです。

人間のエゴを膨張するようにデザインされている、全てのこの世的な影響は、同時に、復活したキリストの超自然的な力への確信と信頼をしばませてしまいます。神が与えてくださった全ての約束の背後には、神の無限の資源があります。神は、私達自身の工夫や賢さで人生の旅路を乗り切りなさいと、私達を放っておかれるようなお方ではないのです。

**G・K・チェスタートン**（1874～1936年）は、自信と自立心と言うプライドの矛盾を鋭く指摘し、次のように記しました。

「今日、私達が損害を被っているのは、間違った場所に見られる謙遜だ。謙遜は、本来決してあるはずでなかった、罪意識という器官の上に居座ってしまった。人は元来、自分のことは信用できなくても、真理については少しも疑わないはずであった。ところが、これが完全に逆転してしまっている。」

主に頼るよりも、他人から受ける人間的な助言や自分自身に信頼を置き続けるクリスチャンは誰であっても、神の完全な祝福の中に入ることは決してありません。ちょうど水が必ず低い方に流れるように、イエスが「生ける水」と描写された聖霊もまた、「心高ぶる…高ぶる者」（ハバクク2：4、5）の元には流れていかないからです。

しかし、へりくだって、不可能を可能にするキリストの力の必要性を認識するクリスチャンの心からは、聖霊が豊かに溢れ、流れ出るようになります。

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『誰でも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。』」（ヨハネ7：37～38）

あなたは毎日、イエスの足元にひれ伏し、生ける水を飲むことができます。それを実行するなら、あなたの人生は、もはや自分の才能や訓練で説明されるものではなく、その代わり、あなたの最も内なる部分から豊かに満ち溢れ出る、神の聖霊によって特徴付けられていきます。

覚えていてください。復活された主は、聖霊という形において、その身に肉の体をまとってください、全ての新生した神の子供の肉体に下ってくださいました。実に、クリスチャンは今日、神を持たない世へ向けた、主イエスの戦略的な上陸拠点なのです。聖霊は、主に役立てられるように自らを明け渡し、用意のできているクリスチャンを通し、他の人達の命を救う主ご自身の働きを広げ続けてくださっています。

「私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。『わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。…』」（第二コリント6：16）

そうです。私達は神の宮であり、この神の宮を通し、神はご自分の聖さと栄光を現わしたいと望んでおられるのです！

パウロは、この驚くべき事実を認識した上で、深刻な奨励を続けています。

「愛する者たち。私たちは、このような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。」（第二コリント7：1）

### 礼拝における現実

音叉（おんさ）はピアノを調律する一般的な道具です。音叉で調律すると、調子の狂っているピアノも完全なハーモニーを取り戻すことができます。これと同じように、聖書は、人間の心の最も悲しい性質を、天国の音楽とハーモニーへと調律するための神の道具です。神のみことばが、栄光、聖さ、そして神の愛に、新鮮な洞察をもたらす時、「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美」（エペソ5：19）」することによって、あなたの礼拝や賛美を常に新しくしていくことができます。

このことを念頭に置いて、主と二人きりで過ごす時に、以下の質問を自問することは、有益です。この節から、

- 父なる神について、新鮮な考えが読み取れるだろうか。
- 子なる神キリストについて、新鮮な考えがあるだろうか。
- 聖霊なる神について、新鮮な考えが見出せるだろうか。

今日、神の民の間で、主を真に礼拝しようという新たな願望が見られることに励まされます。主なるイエス・キリストは、そのような礼拝を奨励しておられます。「神は霊ですから、神を礼拝する者は、**霊とまことによって礼拝しなければなりません。**」（ヨハネ4：24）別の言い方をすれば、本物の礼拝とは、聖霊の油注ぎの下で、神のみことばの真理に沿って行なわれなければなりません。このような礼拝だけが、私たちの父の心に喜びをもたらすのです。

聖霊が、神の驚くべき属性（神の愛、神の力、神の聖さ、神の栄光、神の恵み、神の良さ、また、神の美しさに関する他のあらゆる面）に注目させてくださる時、私達の心は、主への新しい歌と賛美へと導かれます。ひざまずく姿勢は、祈りの中で神の御前に進み出る時、正しい心構えを持つように、必ず私達を助けてくれます。しかし、あなたの人生の中で、神へのあなたの愛と降伏を表現するために、ひざまずくだけでは十分な低さではないと感じられる、非常に個人的で特別な瞬間が、私にも訪れたように、あなたにも訪れるかもしれません。

興味深いことに、ヨハネはパトモス島で、栄光あるキリストの臨在に入った時、ひざまずくだけでなく、「それで私は、この方を見たとき、その足下に倒れて死者のようになった」（ヨハネの黙示録1：17）と、証言しています。

ですが、クリスチャンにとって何かが貴重である時、危険な偽物もしばしば近くに潜んでいることを理解しておくことは重要です！主イエス・キリストは、真の礼拝のための指導を与えてくださっただけでなく、ある人達が礼拝と呼んでいるにもかかわらず、実は本物をまねた偽物である行為についての深刻な警告も与えてくださいました。主イエスが「霊とまこと」を持って礼拝するようにサマリヤの女を励まされた時、同時に、「あなたがたは**知らないで**礼拝しています。」（ヨハネ4：22）と指摘されました。

礼拝とは感情以上のものです。礼拝の焦点は、主イエス・キリストに置かれていなければなりません。もし、礼拝の目的が、人々を方向転換させるよりも、人々を興奮させることならば、偽の礼拝が本物の礼拝に取って代わってしまったのです。もし私達が神への賛美で満たされるはずならば、主は確かに、霊的興奮以上のものを求めておられます。

真の礼拝とは、すべてを統治され、今も生きておられる神、主イエス・キリストが、神のみことばの中に現わされる時、自分の心と思いを謙遜にそのお方に集中させることです。このような時には必ず、神への降伏と賛美のうちに、神の御前にひれ伏す気持ちが内面に生じます。

## 敵への警戒

真の礼拝が生じた段階で、神は確かに「神と共に過ごす時」を祝福してくださっています。今、あなたの良心は清められました。あなたは、十字架で主イエスが成してくださったことを認識することによって、自分自身、自分の評判、自分の野望、自分の所有物に対する権利を放棄したのです。そして今、主への賛美と礼拝への新しい局面に足を踏み入れています。それでは、「神と共に過ごす時」のために、神が意図された祝福の絶頂点に、あなたは立っているでしょうか。いいえ、実はまだです！

非常に怒った敵がそこには存在しています。そうです。確かに悪魔は怒っています。なぜなら、神は、あなたの罪を正当に赦す道を提供していただきましたが、悪魔は執行猶予の可能性なしに、火の池に投げ込まれることになっているからです。ですから、あなたの天国への道程で、悪魔はあなたの歩みにつきまとい、主に対するあなたの献身をそらせ、あなたの証を滅ぼすために、できる限りのことを行ないます。

ですから、あなたが主と共に過ごす時、以下のような質問をすることは有益です。

- この節には、サタンの性質に関する新しい洞察があるだろうか。
- この節には、サタンの残酷な目標に関する新しい洞察があるだろうか。
- この節には、サタンの巧妙な手口に関する新しい洞察があるだろうか。

私はかつて、日曜学校から家に帰ってきた、ある小さな男の子の話を聞かされました。その夜、彼の母親は、彼がベッドの脇にひざまずいて祈っているのに気付きました。「何をしているの？」と尋ねると、男の子は、「サタンを震えさせているんだ」と素早く答えたそうです。「今日の日曜学校で、新しい讃美歌を歌ったんだ。『一番小さい聖徒がひざまずいているのを見ると、サタンは震える』っていう歌なんだ。だからぼくはひざまずいてサタンを震えさせているんだよ！」

残念なことに、サタンを震えさせるには、単にひざまずく行為だけでは不十分です！サタンは、イエスの御名によって、あなたの人生に居座ることを拒絶された時に初めて、身震いします。また、力あるイエスの御名により、悪魔の強烈な支配から尊い命を奪い返すために、あなたが聖霊によって用いられる時、サタンは震えるのです。

多くのクリスチャンは、サタンを放っておけば、サタンも自分達を放っておいてくれるだろう、と感じています。しかし、そう思っているクリスチャンは、悲しいことに騙されています。例えば、祈りの中で神の御前に進み出る時、もう既に告白して赦されたにもかかわらず、過去の敗北を悲しみと共に思い出している自分を見出すことがありませんか。サタンは、あなたが既に心から十字架で対処した罪を持ち出しては、あなたを責め立てる機会をいつも狙っています。サタンがあなたの過去を思い出させる時には、サタンが将来どうなるかを思い出させなさい。神は、ご

自身が赦された罪はもう二度と思い出さないと定めてくださっていますが、サタンは、あなたがその一つ一つの罪に再び集中し、神が赦された罪を残らず思い出させ、そうすることによって、神の愛と赦しの現実をあなたが疑い始めるようにと願っているのです。

**優柔不断、恐れ、混乱、失望は、あなたの神との歩みを邪魔しようとするサタンの努力の成果であり、典型的な兆候です。**

そうです。サタンはあなたから、喜びや平安を奪うためにはどんなことでもします。しかし、あなたが聖書を読む時に、神はいつも、サタンがあなたの人生のどこに居場所を得たかをあなたが見極められるようにさせていただきます。そして、主が提供してくださった武器を持って、悪魔が生意気にも侵入してくる全ての扉を閉じなければなりません！

戦争には、守りと攻めの両方の戦略があります。いかなる戦いも、守りの行為だけでは勝てません。これと同じように霊の戦いも、守りと攻めの両方の戦略が不可欠です。いずれも、神のみことばの大砲が必要とされます。実りある「主と共に過ごす時」を発達させていくうえで、励まされる多くの局面のうちの一つは、あなたがサタンに直接的、あるいは間接的に立ち向かう時、今まで読んできた聖書のみことばをそのまま引用できるようになり、そうすることにより、聖書的に祈れるようになることです。あなたが神のみことばによって祈る時、あなたは神のみこころに沿って祈ることになります。そして、それを知ることは素晴らしいことです！あなたが霊的に生きることを脱線させようとするサタンとその試みに対する勝利を知ることは、神のみこころです。

### 守りの霊的戦い

主イエスがサタンに試みられた時のことを覚えていますか。その直前に、イエスは申命記を読みながら、神と共に親密な時を過ごしておられた、と考えてみるのが、私は好きです。確かに、悪魔の攻撃を防ぐためにイエスが引用した節は、申命記に見出されます。私達の主は、書き記された神の言葉を、「…と書いてある。…と書いてある。…と書いてある」（マタイ4：4、7、10）と、三度引用されました。詩篇の著者が、「あなたは、ご自分のすべての御名のゆえに、あなたのみことばを高く上げられたからです。」（詩篇138：2）と書いた意味を私達が理解できるようにしてくれるのが、この主イエスにのぞんだ誘惑なのです。そうです。強力な大砲である神のみことばが、サタンをイエスの元から逃げ去らせたのです！

同じように、もしあなたが悪魔に打ち勝ちたいならば、あなたは聖書を守りの戦いの武器として、どのように用いるかを学ばなければなりません。サタンがあなたの思いの中に、卑劣な提案を植え付ける時、あなたが頼るのはいつも、神のみことばであるべきです。常に「神と共に過ごす時」を持つならば、そのような試みの時のために、神のみことばがあなたの心の内に住まわれるのを確実にします。

以下の詩は、作者は不明ですが、エペソ人への手紙の第六章に記されている真理に基づいて、書かれたものです。

### 「悪魔の策略」

今日、祈りの場で、激しい戦いを経験した。  
神と話すために神に会いに行ったが、  
そこにはサタンがいて、こうささやいた。  
「お前には祈れっこないさ。  
もうずっと前に負けちまったじゃないか。  
確かに、ひざまずいて何か言えるかもしれない。  
でも祈れやしないよ。自分でも分かってるだろう。」

そこで私はかぶとを深くかぶり、  
耳が隠れるぐらいに引っ張った。  
すると、悪魔の声を静めるのに役立ち、  
私の恐れもおさまった。  
私は、他の武具もチェックした。  
足は平和の靴に収まっていた。  
腰には、真理の帯が締められていた。  
私の剣は、神のみことば。  
義の胸当ても、まだきちんと着いていた。  
私の心の愛が、防御用の胸当て。  
信仰の盾も壊れておらず、  
悪魔の炎の矢を跳ね返すことができた。  
そして、イエスの御名により、神を呼び求め、  
尊い血潮に助けを請うた。  
恥じ入ったサタンがコソコソ逃げ出した時、  
私は神と会見し、話をした！

### 攻めの霊的戦い

完全に勝利するためには、守り以上の戦略が必要です！私達の周りには、傷ついた世界が広がっています。そこは、キリストが死んでくださった何十億という尊い人達の住む所です。どこに行っても、傷ついた男女がおり、多くの人々がサタンに盲目にされ、縛られています。サタンは自分に残された時間が短いと知っていると思います。そのためにサタンは、死に行く人々を、永遠に神のいない場所へ送ることを確実にするために、最後の卑劣な試みをしているのです。

神が「火の池」と呼ばれる場所を、サタンと、サタンに従う悪霊の軍勢のために用意されたことを、聖書から読み取ることができますが、私達は、神が「火の池」を人間のために用意されたのではないことを覚えておかななくてはなりません。キリストは、失われた人間全てのために死んでくださいました。しかし、聖いものや良いもの全てに対して怒りと憎しみを燃やしているサタンは、できるだけ多くの魂を自分と道連れにして、永遠の苦しみへと引きずり込みたいと思っています。この失われた魂のための戦いの中で、キリストは、神に用いられるために自らを明け渡したクリスチャンを通して、失われた魂を捜して救い（ルカ19：10）続けておられるのです。

それ以外では知的な人達が、こんなに単純な福音のメッセージをなぜ理解できないのか、不思議に思ったことはありませんか。聖書には、そのような人達の考えを混乱させる者は誰なのか、また、ある人達にとって、なぜクリスチャンになるのがそれほど難しいのか、その理由も語られています。

「それでもなお、私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々のばあいに、おおいがかかっているのです。そのばあい、この世の神（サタン）が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです」（第二コリント4：3～4）

神の愛と真理の光が、未信者の思いに浸透するのを止めているのは誰でしょう。悪魔です！ 人々の救いのために祈る時、あなたはこのことを考慮して祈っていますか。祈る時には、イエスの力ある御名を呼び求めることによって、キリストに回心していない人達の思いを、サタンの欺きから解放しなくてはなりません。チャールズ・ウェスリーは、素晴らしく、力強い、勝利の御名について、詩を書きました。

イエス！その御名は全てのものをはるかに高く超えている。

地獄でも、地でも、天でも。

イエスの御名の前に、天使も人も皆ひれ伏し、

悪霊たちは、恐れて逃げ出す。

そうです！サタンとその悪霊たちに対する勝利は、カルバリの十字架で永遠に確実なものとなりました。「神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。」（第一ヨハネ3：8）ハレルヤ！私達は負け戦を戦っているのでは、断じてありません！約2000年前、私達のために、取り消すことができないように確実にされた勝利を掲げて、私達は前進し続けるのです。

チェスの試合では、対戦相手に対し、戦況をくつがえせなくさせる、決定的な勝利の一手をさすことが可能です。その時点から、もう相手の負けは確実です。ですが、相手が頑固な場合、どう頑張っても敗戦は避けられないのにもかかわらず、打ち負かされる瞬間を遅らせることはできるのです。

サタンも同じです。サタンは、勝利する見込みが皆無であるにもかかわらず、既に決定された最終的な追放の瞬間を、できる限り遅らせようと試みます。しかし、神に感謝しましょう。サタンが鎖でつながれるまでの残された短い期間にあっても、サタンは既に**打ち負かされた敵**であるだけでなく、既に**発見されてしまっている敵**なのです。聖書には、「私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。」（第二コリント2：11）と書かれています。敵の戦略を知ることが、戦いにおいて有利を得ることです！

使徒ヨハネは、悪魔に打ち勝った聖徒達の勝利について記録しています。また、主の勝利が彼らの勝利となった方法についても、記しています。「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼（悪魔）に打ち勝った。彼らは、死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」（ヨハネの黙示録12：11）クリスチャンは、死に至るまでも、自分たちの命を惜しみ（愛し）ません。なぜなら、私たちの古い人は、キリストと共に十字架につけられ、既に死んでいる（ローマ6：6）からです。

**地獄の力に対し、イエスにある勝利へと私達の権利証書を伴うのは、イエス・キリストの血による清めと、私達の唇による告白、そして、私達がキリストと共に十字架につくことにあるのです。ハレルヤ！**

あなたも、私と一緒に喜んでください！主イエスは、私達が成熟し、勝利するクリスチャンになるために、必要なものを全て備えてくださいました。ですが同時に、もし私達が、神のことにおいて幼稚園児のクラスから卒業して成長したい、という願望を全く持たないならば、主は決して霊的成熟を私達に強要なさいません。主に対する私達の霊的許容量は、私達がこの地上にいる間に関連して決まってきます。そして、天国に着いた時、私達が主にあってどれほど成熟したかに応じて、私達はその許容量を、一点の曇りない主との親密な交わりの中で、永遠に楽しめるようになるのです。

霊的健康診断

**Spiritual Check-up**

- 1 私は眠りにつくとき、何を考えているだろう。
- 2 聖書を読む時、神から聞くことを期待しているだろうか。
- 3 聖書を読む時、神が語られることを進んで行なう意志があるだろうか。
- 4 私の人生は、いまだに「私」という観点から説明されるものだろうか。それとも、私の内に生きておられる「キリスト」という点から説明されるものだろうか。(ガラテヤ2 : 20)
- 5 私は自立した人間だろうか。もしそうなら、自分のプライドを捨て、神への完全な依存を実行する意志はあるだろうか。
- 6 神を崇拝することこそ、自分が従事できる活動の中で、最も崇高なものであることに、私は気付いているだろうか。
- 7 サタンは私の人生の中に、居場所を見出してしまっただろうか。
- 8 サタンに対するキリストの勝利を、私は個人的に、自分のものにする必要があるだろうか。

---

私の信仰は、休み場を見つけました。  
工夫の中でも、信条の中でもありません。  
私は、永遠に生きておられる唯一のお方を信頼しています。  
彼が私のために受けた傷が、とりなしてくださいませ。

私の心はみことばに頼っています。  
書き記された神のみことばと、  
救い主の御名による救いと、  
イエスの血による救いに頼っています。

私には他に何の議論も必要ありません。  
他の弁解もいりません。  
イエスが死なれたこと、  
そして私のために死んでくださったこと、  
私にはそれで十分なのです。

リディー・H・エドマンズ

---

## 第五章 信仰の要素

ある人が、荒れ狂う川を渡り、向こう岸の友達のもとに行かなければならない状況に直面した事を思い浮かべてください。ボートはありません。あるのは凧と、数本のひもだけです。ひもは一本ずつ強度が異なり、一本ずつ段階を帯びて強度を増し、最後のひもはロープ程の強さです。その人はまず、一番細いひもを用いて凧を飛ばし、凧を操って、川の対岸にいる友達の手に渡るようにします。次に、最初のものより少し強いひもをその先に結び付けます。さらに一本ずつ強度の強いひもを順々に結んでいき、最終的には、越せるはずのない川の上にロープがピンと張り渡された状態になるようにします。ロープを兩岸の木にそれぞれ縛り付けた後で、その人は友達のもとに安全に渡ることができるようになります。

新生した神の子供として、あなたは既に、神があなたを愛するが故に、主イエス・キリストがあなたの罪の身代わりとなって死んでくださったことを信じる信仰を持ちました。聖書を読み始めた当初のあなたの信仰は、川に渡されたこの最初のひものように、弱かったかもしれませんが、最初の細いひもでさえ、川を越えた凧をつなげておくのには十分だったのです！しかし、「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによる。」（ローマ10：17）ので、あなたが神の言葉である聖書を読み続け、神の尊い約束をつかみ続けるなら、あなたは自分の信仰が強く成長していくのがわかるでしょう。神は、ご自分の子供達一人一人が、信仰において強くなるよう、意図しておられます。これは、神の子供と天の父との間の、とても近く「共にいる」という親密な関係を前提としています。

聖書中、ユダは、救いの信仰という最初の基礎の上に建て上げていくことがどれほど重要であるかを記録しています。

「しかし、愛する人々よ、あなたがたは自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ…」（ユダ20節）

アンプリファイドバイブル（詳訳聖書）は、その考えをこのように訳しています。

「しかし愛する者たちよ、あなたがたは自分の最も聖なる信仰の上に（基づいて）自分自身を築き上げ（進歩し、大きな建物のように益々高く上昇し）、聖霊によって祈り、神の愛のうちに自分自身を守り保ち、私たちの主イエス・キリスト（メシヤ）のあわれみを期待し、忍耐深く待ち望みなさい。」それは、あなたがたを永遠のいのちへと至らすのです。そして、動揺したり疑ったりする人々をあわれみ、・・・またある人々を火からつかみ出すように（けんめいに）救い出しなさい。またある人々をかわいそうに思い、（しかし）恐れなさい。そして、肉によってしみをつけられた（彼らの肉欲によって汚された）その衣服さえも忌み嫌いなさい。」（ユダ20-23 英語訳より）

これらの節は、私達が救いの信仰という確かな土台の上に、**祈り、愛、生きた希望、行動の伴うあわれみ、熱心な魂の獲得、の生活を発達させていくことによって、自分自身を霊的に築き上げる**（私達の信仰が成熟され、強化される）べきであるということを強調しています。

あなたが自分の救いを、信仰によって無料の贈り物として受け取ったように、あなたが全てに十分な復活の主の命を、信仰によって自分のものとする時、あなたの人生は、内住されるキリストによって支配されるようになるでしょう。「義人は、**信仰によって生きる**」（ローマ1：17、ガラテヤ3：11、ヘブル10：38）のです。あなたが天国にいようと、まだこの地上にいようと、あなたは信仰によって生きなくてはなりません。つまり、神とその約束を信頼し、自分を通して神の働きが行なわれるように、自分を神に明け渡して生きなくてはなりません。天国に着いた時でさえ、あなたの信仰が、神の愛の永遠の目的の中で、あなたが心から感謝して大いに喜ぶための道となります。この神の愛は、既に贖われたあなたの知性の理解をはるかに超えるものです。

まだ地上にいる間、本物の信仰は、あなたが自分では決して達成できないことを、あなたの**内において、あなたを通して**行なってくださる主イエス・キリストに、常に頼っていません。神の子供として、私達一人一人が信仰において成長することは必須です。私達は、命を与えてくださるお方であり、日々の歩みの設計者であられるお方に、益々頼っていくことを学ばなければなりません。

しかしながら、私達はあまりにもしばしば人間的な道理に頼り、本物の信仰の代わりに、数多くの何かを代用しようとします。神に頼らない人間の自立は、本物の信仰を、主への熱心、さらには主への犠牲的な奉仕で代替えしようとします。しかし、本物の生きた信仰は、必ずしも、あるプログラムへの忠誠や説教者への献身、または聖書の包括的な知識を獲得することに打ち込むことなどで証拠付けられるものではありません。そのような献身が、時として本物の信仰を反映している場合もありますが、同時に、意図的に、あるいは本人が意識することなく、力強い本物の信仰の代わりに、致命的な自分本位の動機による代替え品として用いられることも可能なのです。

本物の信仰は、復活の主イエス・キリストに期待し依存することと直結しています。残念なことに、多くのクリスチャンが、自分達の才能を用いることや、人を操る性格を利用すること、また、銀行口座に貯えた資金に頼ることによって、成功した人生を送れると考えています。しかし、聖書は、新生したクリスチャンとして成功するには、私達の人生が聖霊によって支配されなくてはならないと、はっきり述べています。神に抛り頼む信仰を実行しないなら、全てを可能にしてくださいる神の力の代用品として、愚かにも行なった全ての働きが、最後には失われてしまうと、聖書は宣告しています。クリスチャンとして私達が効果的かどうかは、行ないの**熱心さ**によって測られるのではなく、あらゆる活動の動機が、本物の信仰に由来しているかどうかによって測られるのです。

あなたの人生において、神の愛以外で、あなたに安心感や重要だと思える気持ちを与えるものは、お金・教育・友達・力・仕事・外見など、それが何であろうとも、あなたが信仰によって生きていないことを示しています。人生におけるあなたの唯一の真の安心感と重要感は、あなたの贖い主である神のうちにのみ見出されなければなりません。あなたが地上での旅の間、そのように信仰によって生きないのならば、あなたの人生に神が臨在されることによる継続的な喜びが奪われてしまうでしょう。さらに、あなたを通して行なわれる神の愛の働きも、奪い去られてしまうでしょう。なぜなら「信仰から出ていないことは、みな罪」（ローマ14：23）だからです。

G・キースは、信仰を刺激するために、神のみことばを食べ続けることの重要性に関する彼の理解を、以下の詩を書いた時、このように表現しました。

主の聖徒らよ  
あなたがたの信仰が  
主の優れたみことばのうちに敷かれた  
その基礎はいかに頑丈なことだろう

私達の心と人生において、神の御声を認識することなしに、霊的成長の基盤はありません。そして、救い主と二人きりになって親密な交わりの時を共に過ごす為に、神のご計画に従わなければ、この基盤のためのモルタルはありません。

**信仰は、神との生きた交わりを生み出す力だ。**

何年も前、イギリスの約100人の牧師に、リバイバルというテーマで語ったことを覚えています。神は、大いなる力を持って働かれ、その場にいた一人一人の心を深く探られました。皆で公に祈る時になると、一人の牧師が立ち上がり、周りの者の心を打つような砕かれた態度で、目に涙をにじませてこのように祈りました。「ああ、神よ。私は今まで、兄弟達の前で祈るように導かれた時、あまりに多くの場合、あなたの聖なる御臨在を意識するよりも、兄弟達や、神学的に聞こえが良い祈りを意識していたことを告白します…。」

私達の心は欺きやすく、祈る時でさえ、天の父の御前で、自分の心が本当に必要としていることを正直にさらけ出す代わりに、自分の言葉の背後に隠れてしまうことが有り得ます。祈りの言葉を唱えるとか、祈りを口に出して言う時、本当に祈っているとは限りません。透き通った神の永遠の光と聖さの中で、私達の心が開かれ、神と調子が合わされた時に初めて、私達の交わりの時を、主が喜ばれるのです。

貧しい罪人が、聖なる神に満足感をもたらすことができるなどとは、凄く素晴らしい考えです。しかし聖書は、神が人を造られたのはそのためであると語っています。人は、神に栄光をもたらすために造られたのです。気に入ろうと気に入るまいと、私達は皆、聖なる神の栄光のために存

在しているのです！

「あなたがたが主にふさわしく歩んで、あらゆる点で主を喜ばせ」（コロサイ1：10英語訳）というのが、コロサイの教会に向けての、使徒パウロの切実な願いでした。ハンドリー・モウル司教は「あらゆる点で主を喜ばせ」という部分を、「神のみこころのあらゆる期待に対して」と訳しています。それは、私達が、「どうぞ、お気に召すままに」と言う時に意味するのとほぼ同じ意味です。この表現によって、私達は、「私の意志よりも、他者の意志を優先させたい」という願いを伝えます。

神に喜ばれることを求めず、自分達を喜ばせようとする、私達は人生の道のりにおいて、全ての岩につま先をぶつけ、全ての壁に頭を打ち付け、全ての障害物につまずき転ぶ運命にあります。しかし、神の栄光と愛という透明な光の中で、神の子供が創造主と交わる時、神の子供である信者の心にも、神の心にも、何という喜びがあることでしょうか！

聖書は、「信仰」と「神を喜ばせる」ことには、明確なつながりがあることを明らかにしています。次の節にある、二重否定の文法構造は、「信仰」と「神を喜ばせること」のつながりを更に強調しています。

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。」（ヘブル11：6）

この節はその後で肯定的な表現に転じ、全ての純粋な信者達に、確かに大きな励ましを与えます。つまり、神との「交わり」が、神からの「報い」という結果をもたらすと語っています。

「神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです」（ヘブル11：6）

救い主であられる主と親密な交わりの中に生きる人に、神が恵み深く与えてくださる霊的報いは、言葉では表現しきれない素晴らしさです。それは個人的に経験した時に初めて理解できるものです。神を喜ばせ、神の子供達にも大きな喜びをもたらす、神との生きた交わりの鍵は、**信仰**です。

**信仰とは、聖霊が、復活の主の勝利を、神の子供達の元へ運ぶための乗り物なのです。**

既に述べたように、悲しいことですが、説教者の話を聞いて、あるいは、神のみことばを読んで神の約束と出会っても、それが霊的な益を見出せないままの場合があります。

「ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって結びつけられなかったからです」（ヘブル4：2）

頭に入った神のことばが、信仰というスプーンで混ぜられて心に下って初めて、神の言葉を読むことが有益になります。聖霊が、私達の人生に、主イエス・キリストの不可能を可能にする恵みを与えてくださるのはまさにこの時点であり、その結果、私達が主に仕えるあらゆる機会をつかみ取ることができるようになるのです。そして、人生の全ての問題に立ち向かうための、**神の不可能を可能にする力を証明するようになるのです。**

しかし、はっきり言えることが一つあります。それは、真のクリスチャンは皆、激しい試練と誘惑の日々を経験するという事です。サタンは、私達を日々の主との交わりからそらせるために、そそのかすような提案を投げかけ、常にこの世を利用します。贖い主であられる主と、生き生きとした交わりを持つ神の子供ほど、サタンにとって憎むべきことはないからです。ですから邪悪なサタンが、新生したクリスチャンを創造主から疎遠にさせるためにはどんなことでもするのは、何も驚くには及びません。信仰を建て上げるような、**神と共に過ごす時を経験させまいと躍起**なのです。

霊的に鈍感な人にとっては、物質的な世界だけが人生の現実であるかのように見えます。しかし、正反対のことが真実なのです。実際、究極的な現実を含んでいるのは、霊的な世界なのです。

「すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。」（第一ヨハネ2：16）

人はあまりにも簡単に欺かれてしまうため、悪魔がその卑劣な手口を使ってクリスチャンを誘惑するのは、少しも難しくありません。

聖書は、私達が、肉の欲（＝責任を伴わない快樂）、目の欲（＝責任を伴わない所有）、そして、暮らし向きの自慢（＝責任を伴わない力）を通して誘惑されると語っています。サタンは、神が私達のために御計画されたことを邪魔するあらゆる秘訣を心得ています。サタンは、私達が主と共に過ごさないようにするためには何でもします。邪悪なサタンは、私達が神と親密なつながりを持っている時、私達が霊的に成長し、その結果、天の父に益々喜びをもたらすようになることを知っているのです。

## 肉の欲

明らかに性的汚染が充満している今日の不道德な世を通し、サタンは肉の欲望を刺激しています。私達の敵である悪魔は、官能的なもの、肉体的なもの、物質的なものの中に浸り切ってしまう人々の生活に、すぐに近づく手段を見出します。しかし、サタンの邪悪な提案によって騙された人々は皆、すぐに、罪の快樂の泡が破裂した後は、空しさと恥以外、何も残らないことに気付きます！

## 目の欲

もし私達が、商業主義の巧妙な世界に魅了されたり、他人の持ち物を羨ましく思い、欲しがったりするならば、サタンは私達の間で冷酷に前進することができます。大きく欺く者であるサタンは、「もしも、お前が新しい時計さえ持っていれば、もしも、お前が1エーカーの土地さえ持っていれば、もしも、お前がもっと大きな家さえ持っていれば、お前は幸せになれるのに」と、耳元でささやきます。しかし、「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる」（マタイ4：4）ので、最新の気まぐれに浸った後には、やがて、新しく取得した物が、持続する満足感を与えはしないということを発見します。

## 暮らし向きの自慢

サタンの破壊的な策略のための扉は、私達の傲慢な高ぶり、利己主義的うぬぼれ、偽りの自足感（自分自身の力で十分足りているという自立心）によっても、大きく開かれています。神はどのような形であれ、プライド（自尊心、傲慢）を憎まれます！

自分の運命をコントロールするために自分自身の能力に信頼することは、結局、信仰とは正反対のことなのです。なぜなら**信仰**は、主イエスに信頼することだからです。既に見てきたように、神は、人生のプライドに対する唯一の解決法は、「主の御前でへりくだる」（ヤコブ4：10）ことだとおっしゃっています。へりくだって全能の神に頼る必要があることを認識することが、「お前は自力でできるよ」とサタンが巧妙にほめかす時、そのサタンへと開かれた扉を閉めることができる唯一の方法です。あなたの依存、つまり信仰が、あなたに勝利をもたらすでしょう。なぜなら、「私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」（第一ヨハネ5：4）とあるからです。

しかし、（サタンがこの世にある全てのものを通してあなたに近づく時）、あなたが打ち勝った信仰の勝利の中に**完全**に入る前に、主イエスが弟子達に教えたレッスンを学ぶこともまた重要です。主は弟子達に、本物の信仰を妨げる、もう一つの大きな障害について警告しました。

「互いの栄誉は受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたは、**どうして信じることができますか。**」（ヨハネ5：44）とイエスは尋ねられました。

これらの言葉の中で、主イエスは弟子達に、信仰は、他人からの賞賛や誉れを受けたいというかすかな願望とは決して共存できないことを、厳粛に指摘されました。多くのクリスチャンにとって、賞賛を得たいという欲は大きな問題なのです。いずれにしても、キリストを拒絶している社会の賞賛は、本物のクリスチャンの弟子のしるしとはなりません。

あなたが日々、主と共に過ごす時を楽しんで持ち続けるなら、あなたの信仰は成長します。そして、後に人生の試練や様々な機会に直面する時、あなたは、どのようにして生き生きとした打ち勝つ信仰を実践するかが分かるでしょう。

霊の健康診断

**Spiritual Check-up**

- 1 毎日の自分の活動の中で、実際に機能する信仰を楽しんでいるだろうか。
- 2 あらゆる機会の中に問題を見出しているだろうか。それとも、あらゆる問題の中に、キリストが十分であられることを証明する機会を見出しているだろうか。
- 3 神の目的が達成されることを望んでいるだろうか。それとも、自分のための欲望によって、自分が、神の御国を前進させようとしているのだろうか。
- 4 日々主に頼っていることを反映し、自分の人生はパニックに対する耐久力を備えているだろうか。

---

主よ、私にお語りください。そうして私が話せるように。  
あなたの調子の生けるこだまのうちに。  
あなたが捜されたように、私にも捜させてください。  
道からそれて、失われ、孤独でいるあなたの子供達を。

ああ、主よ、私に教えてください。そうして私が教えられるように。  
あなたが告げてくださる尊いことを  
私の言葉に翼を下さい、そうしてそれらが届くように。  
多くの心の奥底に隠された深みへと。

ああ、主よ、あなたの豊かさに私を満たしてください。  
私の心そのものが溢れ出るまで。  
燃え立たせる思いと輝く言葉のうちに、  
語るべきあなたの愛で、見せるべきあなたへの賛美で。

フランシス リッドレー ハバーガル

---

## 第六章 語る時

ある晩、礼拝で説教を終えた後、ある父親が近づいて来られ、彼のために祈って欲しいと言われました。その時、神はものすごい力を持って臨在されていました。その男性は、自分は同僚や友達に証することに問題を持っているのだと言いました。誰かを助けようという時には大抵そうするように、私は、この男性の人生の中で本当の必要は何であるのか、その見極めを、静かに主に尋ねました。私は、「それが本当の問題のように思えません。今、私と一緒にひざまずいて、なぜあなたが証することに問題があるのか示してくださるように、神に尋ねてくださいませんか。」と答えました。彼はためらわずにひざまずいて祈り始めました。

祈るにつれ、主ご自身が、沈黙を保っている唇よりももっと深い問題を、彼に明らかにしてくださっているようでした。その友は心をひどく砕かれ、自分が今まで家庭でいかに暴君であったか、特に、子供達に対して、どれほど専制君主的な態度を取ってきたかを主に語りました。彼は心から悔い改めて、主に赦しを請いました。

その晩は結局、証ができない問題については一言も触れませんでした。なぜならイエスが、新しい生きた方法で、ご自身をこの父親に現してくださったからです。次の晩、彼は喜びに顔を輝かせて集会に来て、「今日一日中、イエスのことを他の人々に話さずにはいられてませんでしたよ！」と話してくれました。

聖書のどこを読んでも、キリストに回心していない人々に、工夫された「救いの計画」を提示しなさい、とは書かれていません！しかし、私達は、常に主イエス・キリストとの親しい交わりの中に歩むように勧められています。そうすることで、私達が人々に福音のメッセージを分かち合う時、私達を通して溢れ流れ出る神の愛が、神の言葉の真理を聞くように、彼らの心を傾けるからです。

しかし、主との生きた交わりの中で、私達の心が主と調和されていない日には、私達の証が、効果的で実りあるものでないことが分かるでしょう。実際、そのような日には、私達の唇は閉ざされ、他の人々に神の言葉を分かち合えず、キリストを拒絶する私達の周りの世界に向けて、自発的に主を明らかにすることができなくなってしまいます。

一日を、生き生きとした「神と共に過ごす時」で始めることは、まだ回心していない人に主イエス・キリストについて話す機会がある時、それをいとも簡単に邪魔する、あなたのそのような抑制を取り除く最初のステップです。神を信じない世の中で、靈的に実りある人生を真に体験することと、「福音のセールスマン」になることの間には、大きな違いがあります！いいえ、信者は、この世で立ち上がって、キリストについて証するよう見える特定の言葉を語るように委任されているわけではありません。その代わりに、新生したクリスチャンは、自分は既にキリストのうちに

ある者であると確信でき、その立場から、喜んでイエスについて語るのです。

それは、ちょうど、主が弟子達にこう言われた通りです。

「人がわたしの内にとどまり、わたしもその人の内にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」（ヨハネ15：5 英語訳より）

イエスの内にとどまることと、イエスのことを人に話すことはあなたの責任ですが、実を結ぶことは、イエスの責任なのです！

ペンテコステ（五旬節）の日を迎え、復活された主と既に個人的に歩み、話をした弟子達は、その興奮と喜びを抑えることができませんでした。彼らはどこへ行っても人々に、キリストに敵対していた人達にさえ、神の大きなみわざについて語りました。（使徒2：11）話を聞いた人々の間に好奇心が起こり、その結果、何千人という人が、キリストの主権についてのペテロの公開説教を聞くために集まりました。ペテロが話を進めるうち、会衆の間に、それぞれ自分の罪に対する深い認識が生じました。ついこの前、キリストを十字架刑にすることに責任があった人々が、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいのでしょうか。」（使徒2：37）と、嘆き悲しむに至ったのです。その日、弟子達の個人的な証と、ペテロの公の説教が組み合わさって、多くの魂の刈り入れが実現したのです！

後に、敵対される環境に暮らすようになった弟子達は、活発な祈り会で、再び神と出会いました。弟子達と彼らのメッセージとを憎んでいた「宗教的な」人々は、イエスについて話すのを止めるよう、彼らを脅しました。以前、階上の部屋で、主イエスは、どのように証するかを弟子達に指導するために、個人伝道のコースを教授していたわけではありませんでした。そうではなく、今や彼らは聖霊に満たされたので、これら熱意あふれたクリスチャン達は、自発的に応答したのです。「私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」（使徒4：20）彼らは再び、神の臨在の中にいたのです！彼らの心は、復活されたキリストの現実に燃えていました。彼らは黙っていることができなかったのです！

1960年代初め、私達夫婦は、当時「鉄のカーテン」と呼ばれていたものの背後（共産主義国家）で、ミニストリーに携わったことがありました。全体主義政権下での牧会の難しさについての質問に、主に忠実なある牧師は、こう答えてくれました。「私達は、今は数の上では少数派だ。しかし、少なくとも、自分達が何者かを知っている。仲間うちでこの地にまだ残っている者は、復活のキリストを知っており、私達は無敵だ」。（読者の中には、このような試練を通してこられた方もおられるでしょう。しかし、この世がどのような方向に進んでいるかを見れば、主イエスがすぐにも再臨しなければ、私達残りのクリスチャンも、キリストのために危険を伴っても全てを捧げるように、思いもかけなかった方法で、召し出されていくようになるでしょう。）

ドロシーは最近、神と共に過ごす時に使うノートに、次のように記録しました。「イエスの霊が私から流れ出るといふならば、息をするごとに、イエスの死の代価が感じられなければならない」。確かに、初代の弟子達は、自分達の大胆な証のために、大きな代価を払いました。しかし、彼らは、イエスについて話すならば投獄すると脅された時、祈るために集まりました。聖書には、「一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。」（使徒4：31）と書かれています。

**効果的な伝道とは、満ち溢れ、流れ出た結果です。つまり、聖霊に満たされたクリスチャンの人生から、聖霊が溢れ流れ出た結果です。これにより、その人の内側に住んでおられるキリストが現実であることが、他の人達に明らかになるのです。**

新約聖書を読むと、初代教会における伝道は、教壇からの説得が得意な性格によるのではないことが分かります。もし弟子達が、一人一人個人的に「神の素晴らしいみわざ」（使徒2：11）について、まず先に宣言していなかったら、ペンテコステ（五旬節）の日には、ペテロの説教を聞きに群衆が集まることはなかったでしょう。

絶望したこの世に、信者の心から、主イエス・キリストの聖さ、命、愛が流れ出る時、人々の心は柔らかくされ、神の真理を聞くために準備されます。ですから私達は、常に「御霊に満たされ」（エペソ5：18）ているために、毎日、主のみことばの光の中で、主と出会う必要があります。

### 満ち溢れ出る伝道

クリスチャンになって間もない頃、私は若者の交わりに参加していました。私達は確かに、「知識」よりも「熱意」を持っていました！それにもかかわらず（あるいはだからこそ！）神は私達を、まだ回心していない友達の間で用いるのに適切であると見なしてくださいました。若い信者として、私達が関わるようになった体験のうちのいくつかを話させてください。

**職場生活**：クリスチャンになりたての頃、私は学業を続けながら町議会の土木技術局に勤務していました。ある日、町役場で働いていた時、町議長の豪華なオフィスに呼び出され、厳しい注意を受けました。「君の課外活動について聞いたんだが」と、ボスのボスが言いました。彼は明らかに、私達若者が行っていた伝道活動のことを言っていました。私達は毎晩、大衆酒場が閉店する頃に、人気のある街の広場で野外伝道集会を開いていました。初めは、通行人も進んで立ち止まって話を聞かないので、誰かが話し手にヤジを飛ばし始めると、「しめた！」と嬉しく思ったものでした。なぜなら、反対者が話し手を困らせると、もっと人が集まって来るようになるからです。一緒になって批判する人もいれば、「石鹸の木箱の上の、あの可哀想な人！」と支援してくれる人達も出始めるからです。やがて周りには、福音を宣べ伝えるためのかなりの人だかりができます。時には一晩に、一人か二人、救い主の元に来る告白をすることもありました！議長は私に「町役場に勤めるプロとしての名声は、どんな形であれ、そのような熱狂的活動と関連付

けられてはならない。」と、警告しました！彼は私に、そのような活動を一切止めるように強く命じました。しかし、野外集会在実を結んでいるようであったので、私達若者は皆、これ続けるよう、神に導かれていると感じていました！

後に、聖書大学に通い始めた時、チャペルでの毎週の礼拝で、学長が次のように話していたことを覚えています。「野外で聴衆を引き付けておくことができないなら、教会の中で一方的に説教を聞かされる囚われの聴衆を退屈させることは止めなさい！」この言葉を聞いた時、私達若者が伝道集会を断固として続けたことを、私は再び感謝しました！

キリストに回心した直後、私は職場の同僚全員に、キリストにある私の新しい信仰について証しました。しかしある時、そのオフィスの中で、私が証する機会を持てなかった人が一人だけいることを思い出しました。それは、汚れた床を磨くために毎晩オフィスに来てくれる女性でした。私はある晩、皆が帰った後、たわしとバケツを探し出すや、すぐに掃除を始め、床がきれいになったところで、掃除婦の到着を待ちました。オフィスに現れた彼女に「あなたの今日の仕事はもう済んでしまいましたよ」と、私は喜んで言いました。彼女は非常に驚いて言葉を失っていましたが、紅茶を飲みながら一緒に座ってくれました。もちろん、会話の中でイエスについて話すことができました。共に語り合い、祈った時、彼女の目から流れた涙を、私はこれからもずっと忘れないでしょう。

**社交生活**：私の21歳の誕生日もまた思い出深いものです。当時のイギリスでは、それは人生の非常に特別な一大イベントで、そのような機会を、壮大な夕食会と食後のダンスで祝ったものでした。しかし私が21歳になるまでに、神は、私の足からダンスを取り去り、心が踊る者として下さっていました。ですから、私の両親が愛を込めて催してくれた私の21歳の誕生日パーティーを、自分の友達をキリストの元に勝ち取る機会であると見なしました。そこで、誕生日パーティーに一人の伝道者を招待したのです！まだ回心していない仕事の同僚や友人達に送った招待状には、私の友人の一人が食後にスピーチをするという説明を付けました。さらに、「誕生日パーティーに必要なのは、あなたのプレゼントではなく、プレゼンス（出席）です」という、露骨な招待の言葉を書きました。そしてその晩、素晴らしい事に、私の友人の一人が救われました！

後に、私がロンドンで、あるバプテスト教会の副牧師になった当時、教会の若者達は、川への小旅行やイギリス縦断の旅、スポーツイベントなどを、必ず、まだキリストへ回心していない友人を招待するにも十分魅力的であるように取りまとめました。しかも、そのようなイベントの終わりには例外なく、福音をきちんと明確に提示しました。当然でしょう。信者である若者達は、自分達のような若者の交わりが存在する目的は、まず第一に、自分達が主にあって建て上げられるためであり、第二に、自分達の友人がキリストに立ち返ることを見届けることであると認識していました。ですから、若者の交わりが、神の祝福の下で実を結んでいったことも不思議ではありませんでした。

**霊的生活:** 私は19歳で主に立ち返るまで、聖書を真剣に学ぶことに全く興味がありませんでした。その結果、その年齢で、私は神のみことばについてほとんど知りませんでした。しかし、キリストを自分の主、救い主として受け入れた後、毎週月曜の晩、キリストに立ち返ったばかりの者達数人で家に集まり、共に聖書を勉強しました。私達の熱烈な動機は、できる限り早く、神の言葉を頭から心へと持っていくことでした！私達はクリスチャンになったばかりの初期の段階から、本書で紹介した基本的なやり方で、聖書の学びを行ないました。私達は聖書を宗教の教科書としてではなく、生涯を通して私達を導く方位磁石のようなものであると見なしていました。

これらのシンプルな聖書の学びの直接の結果として、他の若者達も数名救われていきました。そして、彼らと一緒に更に広く福音のメッセージを携えて行く方法を考え出しました。車を持っている者が一人もいなかったのもので、自転車で引けるトレーラーを作ろうというアイデアが生まれました。そして、機械に強い者が、手で巻き上げる拡声器付き蓄音機を作り出しました。こうして週末に、自転車で拡声器を乗せたトレーラーを引っ張りながら、周囲の村々まで出かけて行ったのでした。

私は、メソジスト教会が閉鎖され、その扉に鍵がかかったままになっていたある村のことを良く覚えています。福音を広めることに熱心であった私達は、教会の鍵を探し出し、建物の使用許可を得ました。そして、教会の座席のほこりをはらい、きれいに磨き込んだ後、拡声器を携え、グリーン村と呼ばれるその村の中央に出かけて行きました。そして、酒場の外に教壇を設置し、アメリカ人ゴスペル歌手、ベブ・シェアの最新のレコードを流しながら、野外集会を始めました。その当時、ベブ・シェアは若きビリー・グラハムと一緒にイギリスを訪れたばかりでした。ゴスペルソングの合間に、石鹼が詰まっていたダンボール箱の上に代わるがわる立ち、キリストを自分の主、救い主として受け入れることになった経緯を、一人一人が順番に証しました。しばらくして、酒場を出て芝生に座り、興味を持って聴いている人達に向かって、私達の内の何人かが福音を語り始めました。村の住民は驚いたのですが、主はその週の終わりまでに、村の教会を人々で一杯に満たしてくださいました。当時キリストを見出したある人は、後に、日曜学校の教師となり、その彼女の姉妹も、救い主キリストに立ち返るようになったのです。やがて、その教会のドアはもはや固く閉ざされたままではなくなり、毎週小さな日曜学校と日曜礼拝が再開されるようになりました。

パウロはテモテに命令しています。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい」(第二テモテ4:2)

もし、パウロが今日も神のために働いていたとしたら、おそらく彼はテモテに次のような言葉を用いて語ったのではないのでしょうか。「神のことばを分かち合う機会があるのなら、それをつかみなさい。機会がないなら作りなさい！神のことばを宣べ伝えるのに良い機会と言えない時季などありません！」聖書の勉強会で得た知識が、教会に行ったことのない人々の元へ、愛と勇気あ

るやり方によって届けられることにならないようならば、パウロはそのような聖書勉強会を、好ましいものであるとは見なさなかったでしょう。

あなたが神の言葉を頭から心に取り込む秘訣を学んだ時、エレミヤの言葉のように、その言葉があなたの「骨の中で燃えている炎」になるとわかるでしょう。

悲しいことに、もし聖書があなたの頭の中だけにとどまってしまえば、悲劇にも、あなたはみことばの人ではあるのに霊の人ではない、ということがあり得るのです。骨の中に炎がないからです！しかし、あなたが神と共に過ごす時を通し、神と常に出会うならば、回を重ねるごとに、みことばの人となることなしに霊の人となることは不可能である、とわかるようになるでしょう！

そうです。私達が聖書を読む時、神は私達に語りかけてくださいます。そして、神は、私達が神から語られた事を他の人達にも分かち合うように、期待されています。神はエゼキエルにおっしゃいました。

「あなたは、わたしの口からことばを聞くと、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。」（エゼキエル33：7）

しかし、**神の口**から出ることばを、まず自分が聞いて個人的に応答することもせずに、他の人達に話すなら、それは無意味です。

キリスト教を弁護する者は多くいます。しかし、残念なことに、生きた神との個人的な関係を本当に証できる人は、あまりに少な過ぎるのです。

使徒ヨハネは、後になって、自分自身の体験に基づいて、キリストとの生きた交わりの現実を喜んで証することができました。ですから、自分と共に、この神との親密な交わりに参加するように他の人達を招いたのも、当然のことだったのです。

「あなたがたもわたしたちと交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです」（第一ヨハネ1：3）

霊の健康診断

**Spiritual Check-up**

- 1 私は、職場や住んでいる場所を、ミッションフィールド（宣教の地）だと理解しているだろうか。
- 2 人々を単なる回心の候補者として見ているだけだろうか。それとも、キリストにある新しい人生へと導かれるまで、彼らを祈りつつ愛そうとしているだろうか。
- 3 実用的な方法で誰かを助けることによって、キリストのことを証する機会を勝ち得たのはいつのことだったか。
- 4 以下の理由から、私の唇がイエス様のことを大胆に語れないまま閉ざされてしまっているだろうか？
  - 私の人生が妥協し、神と世の二股をかけたものであるので。
  - 私のキャリアが危険にさらされるので。
  - あざけられ拒絶されたナザレのイエスと同じ立場になることを望まないプライドがあるるので。

---

## 永遠の光

永遠の光！永遠の光！

全てを探られる主の視界に置かれる時、  
魂はどれほど聖くなくてはならないことか  
そのような魂は縮み上がらず、静かな喜びを持って  
生き続け、主に目を向けることができる！

神の王座を囲む天使たちは  
燃えるような至福にも耐えられるだろう  
しかし、それは彼らだけのものである  
なぜなら、彼らは決して味わったことがないから  
罪で墮落したこのような世界を

ああ、生まれながらに闇に囲まれ、  
思いの薄暗い私が、どうしたら  
唯一完璧なお方の前に立てるだろう  
私の裸の霊がどうして耐えられることがあろうか  
人の手に造られたのではない、唯一の光を

そのお方が住まわれる崇高な高みにまで  
人を起き上がらせる道がある  
それは、捧げられたいけにえ、聖霊のエネルギー  
神と共におられる弁護者

これらが、私達を整えてくれる  
天におられる聖なる神の御前で  
無知と暗黒の子らが、  
永遠の光の中に住むことができるように  
永遠の愛を通して！

---

トーマス・ビニー(1798～1874年)

## 第七章 実か火か

私にはベントという名の友人がいました。アメリカに帰化したスウェーデン系アメリカ人で、クリスチャン実業家として成功しました。彼は数あるミニストリーの中でも、宣教用の飛行機を宣教の地に送り届ける働きに最高の喜びを覚えていました。ある年、ベントと彼の友人は、MAF（ミッション・アビエーション・フェローシップ、宣教航空フェローシップ）というクリスチャン団体から、小型飛行機の運搬を依頼されました。かなりの距離を飛行後、友人とはフェアバンクス空港で別れ、ベントは任務完了までの最終行程を単独飛行する予定でした。友人は別れ際に、緊急用パッケージを一つ、ベントの操縦する小型飛行機に投げ込んでいきました。パッケージと言っても、入っていたのは、板チョコと暖かい毛布が一枚ずつでした。しかし飛行中、予期せぬ嵐に見舞われたのです。アラスカの山脈地帯に発生する恐ろしい強風に飲み込まれ、小さな飛行機はどんどん落下していきました。飛行機は上下逆さまにひっくり返り、山の崖縁に滑り込んで止まりました。その後の三日間、雪が降り続けましたが、神はそのあわれみによって風を吹かせ、逆さまにひっくり返って不時着した飛行機の白い腹部が、雪で覆われないようにしてくださいました。しかし、白い雪で囲まれていたため、沿岸警備隊が航空探索チームを飛ばし、ベントの頭上を通った時も、ベントの小さな飛行機は彼らに気付いてもらえませんでした。

沿岸警備隊の航空探索が打ち切られた時、ベントの息子でクリスチャンの青年であるブルースは、MAFのパイロットと一緒に祈り、ベントの所まで導いてくださるよう、主に願い求めました。その間、ベントの衰弱は進み、助からないと覚悟した彼は、セルフタイマーを使って最後の写真撮影までしていました。それは、やつれてはいても笑顔で愛する家族に別れの挨拶として手を振っている写真でした。しかし、神はベントの思いとは別のご計画を持っておられました。ブルースとMAFの友人が、飛行機の墜落現場上空に差し掛かった時、白い機体の腹部に太陽の光がキラリと反射しました。注意深く懲らしていた彼らの目には、その反射が映ったのです。

この話を皆さんにする理由は何でしょう。後に、ベントは、あの十日間、自分はキリストの裁きの座に直面していた、と語ってくれました。事故の後で話してくれたのですが、ベントは、吹雪の山の崖縁で神と二人きりで過ごしていた時、もうすぐ神の御元に召されていくのだと予期していたと言うのです。そしてその時、聖霊がベントに、今まで地上で過ごした人生を振り返ることをお許しになった、と言うのです。ベントは、その体験はまるで、クリスチャンがいつか直面するキリストの裁きの座が、早く自分のところに來たような感じだった、と話してくれました。自分の人生が目の前に広げられた時、ベントは自分の献身的なクリスチャンの奉仕を振り返り、その中のどれくらいが、本当に永遠に残るものだったのだろうかと考えたそうです。

ベントは「今までの教会の理事会会議や宣教師協議会、その他の多くの教会の活動が、喜んで行なわれたものであったにもかかわらず、自分の肉のエネルギーにおいて、自分の才能や能力を発揮するために行なわれたことであり、聖霊の十分な満たしの結果として行なわれたのではないこ

とに気が付いた」と、実に深刻な様子で話してくれました。

その十日間、神はベントに、そのような「価値がある」と思われる活動が、単なる「木、草、わら（クリスチャンの裁きの座で燃やされてしまい、永遠には残らない日々や、行ないを表した聖書中の比喩表現）」に過ぎないと示してくださったというのです。

この素晴らしい経験は、ベントの人生における本物のリバイバル体験でした。私を含め、長年彼を知り、彼を愛し、神の働きのために彼が自らをつぎ込んだ熱意に感謝している人達は、彼の言葉の意味を後になって理解しました。なぜなら、ベントの残りの生涯数年は、彼がどこで証をしようとも、それは彼自身の能力や力によるものではなく、彼の人生を通して新たに溢れ流れ出ている神の祝福と力の現れだ、と説明できるものだったからです。

全ての信者のために用意されている裁きの座に、皆いつか立つことになると思う時、私達クリスチャンは厳粛な気持ちになります。この裁きの座は「大きな白い御座の裁き」とは別のものだと認識する必要があります。「大きな白い御座の裁き」は、キリストを信じない全ての不信者達が裁かれ、永遠に失われた者としての実刑判決を受ける場です。一方、クリスチャンに用意された裁きの座は、信仰によらなかったあらゆるものが燃やされ、信仰から出た全てのものが、神の栄光のために永遠に生き続けるようにされる場所です。なぜなら、信仰から発生した働きは、結局は神ご自身が行なわれた働きだからです！その日には、多くのクリスチャンが、教会の中で忙しく活動したことや、クリスチャンの世界で人気者だったことが、地上での人生の間に満足感を与えたものだったとしても、神の思いにおいては、本物の霊的な奉仕としては見なされていなかったのだと、悲しくも発見することになります。

### 白いページ

私の目の前に、きれいな白い紙が二枚あります。両方とも白紙であり、誰もこれらの紙に何かを書いたり描いたりしていません。あなたがこれらの紙を見る時、誰の思いも文字として綴られておらず、美しい絵も描かれていません。しかし、同時に、この紙を通して、誰の失敗も見ることはありません！何の美しさもないと同時に、染みも汚れもありません。**ただの白い紙であり、それ以上でもそれ以下でもありません。**

あなたの人生も、私の人生も、これらの白い紙のような日々が多くあるでしょう。かつては罪によって染みで汚れていたのに、今は、素晴らしい神のあわれみにより、そして、イエスの血の注ぎかけを通し、信者の人生の全ページが清められました。そのため、何の汚れも残っておらず、「雪のように白い」（イザヤ1：18）のです。クリスチャンとして、自分の人生のいくつかのページを振り返る時、故意に、または無意識に、自分の意思や弱さから、罪を犯し聖霊を悲しませてしまったことを思い出し、悲しくなります。イエスの血潮がなかったら、私の人生のページは、罪と自己中心の醜い染み跡を永遠に残したままだったでしょう。何と素晴らしいあわれみと恵み

を、神は私に与えてくださったのでしょうか！かつては罪で汚れたページさえ、今では雪のように白いのです！ 白いページ；しかし、神をほめたたえましょう。汚れも染みも無いのです！

しかし、私を通して聖霊がしてくださったこと以外のものは何であれ、永遠には価値がないのだと認識することは、私にとって身の引き締まる思いです。人生のそれらの日々は、使徒パウロの言葉の中では、火の中をくぐるようにして助かる（第一コリント3：15）と述べられています。私の人生から聖霊が満たされ溢れ流れ出ることがなければ、主の赦しによって罪は消されても、永遠に価値のあることは何も成し遂げられていません。白いページ；しかし、悲しいことに、それ以上の何ものでもありません！

人生のあるページは永遠に白いままでしょうが、あるページは、決して消えることのない、際立った美しさの絵が描かれてあることでしょうか。釘打たれたキリストの愛の御手そのものによって描かれるページです。そして、その絵は、主の栄光を永遠にほめたたえるのです。これらはクリスチャンにとって栄光に輝くページです。なぜなら、自らを神に明け渡したクリスチャンを通し、永遠の神がご自身の永遠の働きを行なわれた日々の記録だからです。そうです、白いページ；しかし、神をほめたたえましょう。もっとすごいのです！

### 無駄にした年月

神から「来て食べよ」と日々招かれている人が、主との交わりを深めていく喜び、そして救い主に喜びをもたらすことで過ごせたはずの毎日を、何年もの間無駄にするとしたら、それは何という悲劇でしょうか。

この世の生活の表面的な快楽と差し替えに、既に多くの機会を逃し、人生の大半を無駄にしたとして、救われたことをも心から喜ばなかった、ある老人のことを思い出す時、喜びと同時に、悲しみを覚えます。私は救われて間もなく、キリストを受け入れて間もない仲間達と一緒に、近所の病院に奉仕に出かけたものでした。隔週土曜の夜に、退院できる見込みがなく希望を失った老人達に、福音のメッセージを伝えたり、彼らと祈ったりしました。ある晩、私は一人の老人のベッドの脇に行きました。（その老人は、その次に病院を訪問する前に亡くなりました。）

老人は、聖書からの短いメッセージを聞いて心を大きく動かされ、涙が頬を滴り落ちていました。そして弱々しく胸の内を語り出したのです。「自分が救われ、天国に行くということは分かっている。」私は「それは、素晴らしいですね」と答えましたが、私がそれ以上のことを言う前に、老人は声を上げて泣き始めました。それは抑え切れない喜びからではなく、内側の傷の痛みからでした。弱々しい声で老人はささやきました。「その通り。だが、完全に素晴らしいというわけではないんだ。なぜなら、私は今71歳だ。つまり、これまでの70年は、無駄に費やしてしまったということなんだよ！」

まだ若いクリスチャンだった私が、何と答えることができたでしょう。私はその時にどのように老人を慰めようとしたのかは覚えていません。ですが、その夜帰宅した後、ひざまずいて、主に次のようなことを言ったのを覚えています。「主よ、私は今、いつの日か自分が振り返ることになる将来を見つめています。私が天国に行く時が来た時、救われた魂を持っていても、無駄にされた人生を持って天国に行くのはいやです。今晚、私の人生を再びあなたにおゆだね致します。あなたが、私の人生を、永遠に価値あるものにしていただきますようにお祈り致します。」

旧約聖書の中で預言者ハバククは、私達が莫大なエネルギーを費やした後で、悲しくも自分のしたことが結果として何にもならなかったと発見することがあり得る、と警告しています。ハバククは同時代の人達に、「正しい人はその信仰によって生きる」（ハバクク 2：4）と教えています。また、生きている間に行なうあらゆる活動に、神に完全に頼る信仰の原則を応用しないなら、「ただ火で焼かれるために勞し」（ハバクク 2：13）ているとも警告しています。ハバククの時代の人々は、自分達の街を、神に頼らずに築き上げたため、灰以外は何も残りませんでした。同様に、私達が主イエス・キリストに完全に頼らずに行なった事は何であれ、いつの日か、火のような神の臨在の前で、無になってしまうのです。

パウロも後に、新約聖書の中で同様の警告を発しています。

「もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして、助かります。」（第一コリント 3：12～15）

老人介護室にいた71歳の老紳士は、自分が救われたことを喜びました。しかし同時に、「火の中をくぐるようにして」救われたことを非常に悲しんだのです。彼の人生の木、草、わらを燃やし尽くしてしまう火と同じ火が、人々の金、銀、宝石を精錬し、聖霊によって神ご自身の朽ちることのない建築資材を建て上げておられるのです。

### 永遠の光

永遠の神は、キリストの内にとどまり、信仰を養い、神のみことばを人生に適応するクリスチャン一人一人を通し、神の永遠のみわざを行なわれます。このようなクリスチャンは、神への期待と喜びを持って、新しい毎日に直面していけるでしょう。そして確信を持ってこう証するでしょう。

「こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではあ

りませんか。こうして私たちは、慎みと恐れをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。」（ヘブル12：28）

効果的で継続的な「神と共に過ごす時」を持つ事により、肉のエネルギーの中にではなく、聖霊の力の中を歩むよう、励まされるようになります。

生きた神のみわざのために用いられる器として自分を明け渡してきた人達は、いつの日か、全てを探り出される神の聖なる臨在の光の内に、言葉には表せない喜びを持って喜ぶこととなります。そうです、一日一日、主の祝宴の食卓に引き寄せられるたび、光と愛の神は、彼と透明な親密な交わりを楽しむよう私達を招いておられます。そうすることによって、私達は、自分中心の闇の世界に向けて、神の光と愛を運ぶ経路となれるのです。

霊の健康診断

**Spiritual Check-up**

- 1 現在の生き方をこのまま続けるとしたら、私の人生からキリストの裁きの御座で残る実はあるだろうか。
- 2 祈る時、神を「永遠の光」であられるお方と見なして、神に近づいているだろうか。それとも神を、単に天から恩恵を与えてくださるお方と見ているだけなのだろうか。
- 3 私は今、ダビデ王のように「あなたのみことばのおりに私を生かしてください。（詩篇 119:25）と祈る必要があるだろうか。



---

親愛なる主よ、私のために、いのちのパンを割いてください  
あなたが湖畔でパンを割かれたように  
神聖なるページを超えて  
主よ、私はあなたを求めます  
私の霊はあなたを慕い求め渴きます  
ああ、生きたみことばよ

ああ、主よ、私にとって、あなたはいのちのパンです  
あなたの聖いみことばの真理が私を救います  
天におられるあなたと共に  
食べ、生きるために与えてください  
あなたの真理を愛することを教えてください  
あなたご自身が愛ですから

ああ、今私の上に、主よ、あなたの霊を送ってください  
私の目に触れてくださり、私が見えるようにしてください  
あなたのみことばの中に隠された真理を示してください  
そうすれば、あなたの書に現わされた主を見ることができますから

メアリー・アン・ラスベリー

---

## 第八章 来て食べよ

復活された神の御子イエス・キリストは、人々に気付かれることなく、ガリラヤ湖の砂浜に一人で立っておられました。もしかしたら、朝の霧が、疲れきった弟子達の中から主の荘厳なる臨在を覆い隠していたのかもしれませんが。もしくは、イエスの十字架上での残酷な死の影響で、彼らの霊的な目が曇っていたのかもしれませんが。

岸からそれほど離れていない所で、意気消沈した弟子達は、小さな漁船に身を寄せ合っていました。彼らは一晩中漁に出かけましたが、何も獲れず、フラストレーションのたまる夜を過ごしたのでした。すると、それに追い討ちをかけるかのように、「子供たちよ。食べる物がありませんね。」と誰かが尋ねたのでした。それからその岸辺にいたお方の唇から、全てを知っておられるお方の明確な命令がくだされました。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」

ヨハネは、聞き覚えあるイエスの声に反応し、悪夢の後の茫然とした状態から我に返り、喜び叫びました。「主だ！」新たな希望を持って弟子達が主の指示に従うと、網はたちまち大量の魚でいっぱいになりました！ペテロは、感動と興奮の勢いあまって波間に飛び込み、主の元へ喜び勇んで泳いでいきました。（ヨハネ21：11）

岸辺で火を起こされていたのは、復活された栄光の主ご自身でした。イエスは弟子達が集まると、魚を持ってくるように言われ、すぐに栄養ある食事を準備されました。そして、空腹ではあっても喜びでいっぱいの弟子達を、恵み深く招かれました。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」（ヨハネ21：12）

この恵み深い招きは、二千年の年月を通してごだまし続けています。主イエスは、朝ごとに、永遠の岸辺に立たれ、ご自分の手で丁寧に準備された天の食事を食べなさいと、私達を招いてくださっているのです。そうです。私達のために、日々の食事を丁寧に準備してくださるのは、神であり、私達の救い主であられる主、イエスご自身です。それは私達の信仰の糧、すなわち、神の言葉、聖書です。

私は間もなく、みことばに向かい、「神と共に過ごす時」を持ちますが、あなたがそれに耳を傾けられるよう、お招きしたいと思います。この個人的な祈りの時を記録する理由は一つしかありません。それは、あなたが、「来て食べなさい」という主の恵み深い招きに常に応答する際に、あなたにとって実用的な励ましとなり、貴重な助けと成り得るからです。私は二つの全く異なった所から、「神と共に過ごす時」とは本来どのようなものであるか、リアルタイムで分かち合うべきだ、という促しを受けました。

第一に、前章までの原稿を読んでくれた親切な友人が、本書の結びにふさわしいからそうするべ

きだと、強く勧めてくれました。

第二に、これまでの長い年月、様々な集会や教会で、「神と共に過ごす時」を導き、多くの人達と実践する機会がありました。その度ごとに、神がどんなに特別な方法で人々を祝福してくださったかを目撃する特権に預らせて頂きました。

このような機会が与えられた時はいつでも、居合わせた人は誰でも参加できました。そこでは、黙って心の中で聖霊に祈る以外、何の質問もされず、説教も語られません！交わりは必ず、聖霊が私達の教師となってくださるようにと、皆で共にお願いする祈りから始めるからです。次に、その時に選んだ聖書箇所を、皆で声を揃えて読み進めます。全体を読み終えた後、最初の節に戻り、再び一節ずつ全員で音読していきます。今度は、次の節に進む前に、30秒間静かな時を持ちます。この沈黙の間、各自祈りながらその節を瞑想し、本章の終わりにある質問事項への答えが見つかるかどうか判断します。その静かな祈りと瞑想の時間の後で、聖霊がそれぞれの心にその節をどう適応してくださったかを、各人がグループ全体で自由に分かち合います。そして、それを分かち合った人か、あるいは別の人が、話されたことに対し、祈りで神に応答するのです。

グループで「神と共に過ごす時」を持つ場合、これが最も有益な方法であると私は信じています。本書を使ってグループの学びを進めている方は、この時点で、上記のやり方を皆で実行してみてください。また、そのための集まりを、さらに数回持たれることを、強くお勧めします。（質問事項の詳しい内容は、本書の付録Aを参照）

「神と共に過ごす時」を集団で行なうという考え方を最初に紹介してくれたのは、イギリス人伝道者だった故トーマス・リーズ師でした。私がキリストに回心した場である、「若者のための祝日コンファレンスセンター」でのことでした。彼が提案した質問は、本書の第四章で提案されているものとほぼ同じ内容でした。

以来何年も経ちましたが、多くの集会で、このように神との交わりの時を紹介し、皆で共に実行する時には、並外れた神の臨在が感じられ、参加者の心には聖霊の明確な語りかけがありました。カナダのビクトリアの中心にあるバプテスト教会で、そのような集会を持った後、牧師から次のようなコメントをいただきました。「私の奉仕生活を通して出席した中で、この集会は最も祝福された素晴らしい礼拝だった。」

また、「旧都エルサレムのアラブ人のためのクリスチャン&ミッショナリー・アライアンス教会」で、数日間にわたる奉仕を終えた後も（そのうち何日かは、神と共に過ごす時について教え、さらに数日かけて、グループでそれを実践しました）、カナダのバイブルカレッジの校長を引退したエルサレム在住の方からも、コメントをいただきました。「このエルサレムで、これほど本当の霊的躍進を経験したことはなかった！」

神は、この公共でありながらも同時に非常に個人的な神のみことばへのアプローチを、教会の集会、家庭集会、コンファレンス、青年のための集いなど、一つ一つの場で特別に祝福してくださいました。

しかし今回、私の個人的な「神と共に過ごす時」を書き記した時、主との個人的な交わりの現実性、その輝き、与えられる霊的なひらめきなどを活字で表現することは、自分個人で体験したり、集会で体験したりするよりも難しいことであると発見したことを、お断りさせていただきます。

今日、私が主と共に過ごす時のハイライト部分を記録するにあたり、いくつかのルールを決めました！

第一に、聖書中、私が良く知っているお気に入りの箇所は選ばないということです！最近、私が主と共に過ごす時には、パウロがコリントの人達に宛てた、二番目の手紙を読んでいます。ですから、その箇所を通じての神との会話を記録します。

第二に、今日の聖書箇所の記録は、各節ごとの解説を記録するのではない、ということです。

第三に、この、私の「主と共に過ごす時」をなるべく自然（＝聖霊が働かれる通りという意味。従って、厳密には超自然）にするために、聖霊が今日、生きた言葉として私の心に強く語ってくださった節を、お分かちします。

第四に、本書で既に示した質問を用いて祈りながら聖書の言葉を瞑想する時、神の声がどのように私個人の問題へと集中させてくださるのか、その経緯をお分かちします。

私があなたに私個人の瞑想を分かち合う時、あなたは、「神と共に過ごす時」が非常に個人的な経験であることが理解できるでしょう。あなたが現在置かれている状況は私の状況とは違うでしょう。また、私の現状も半年後には異なるでしょう。しかし、神は、その大きな愛によって、過去の自分や、将来の自分や、あるいは他の誰かがいる場所ではなく、今私達がいる場所で会われ、語ってくださるのです！あなたは、私とは全く異なる状況に直面しているでしょう。神はあなた個人の必要と状況に応じて語ってくださるので、あなたは主から個人的に毎日「来て食べよ」と、招かれているのです。

確かに、聖書は、私達の心に語りかける、神の生きて、力ある言葉であるだけでなく、私達一人一人に対する、神の個人的な言葉なのです！「神のことばは生きていて、力があり、……心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」（ヘブル4：12）これ以上に個人的なものがあるでしょうか。

私は今日の瞑想を、ニュー・キング・ジェームス訳（新欽定訳）聖書を読んで行ないます。今、

第二コリントの一章を開きます。それをお聴きください。一緒にご自分の聖書を開いてください。

午前5時。私は部屋の戸を閉め、神と二人きりになるために聖書を開きました。

聖書と心を開き、神の御前に進み出る今、私を取り巻く状況には次のようなことがあります。

- 妻のドロシーが耐えてきた継続的な体の痛みが今もなお増していることが特に心配。過去数週間、ことに痛みがひどくなってきている。
- 今秋のミニストリーの旅程に関する最終的な決定をする際に、ドロシーの健康状態を考慮に入れるべきかどうか、非常に気になる。これまで、長く過酷な宣教旅行で、彼女がひどく苦しむ姿を見てきた。その度に「ドロシー、もう二度とお前をこのような状況にさらさないよ」と言ったものだった。しかし神は、様々な方法で、私達夫婦の一致したミニストリーの上に大きな祝福を注がれ、「栄光に輝いた、やる価値のあるものだった！」と互いに言い合ってきた。主よ、今回はどうなのでしょう？
- ケニヤの状況が、今日、私の心に重くのしかかっている。神は今まで、ケニヤでの私達のミニストリーを喜ばれ、祝福してくださった。ケニヤ全土にインフレが広がり、極度に不安定な状況になっている。現地でキリストに忠実に仕えているケニヤ人達のために何かできればよいのにと思う。
- ドロシーにも私にも、家族に先立たれた親族や、病の末期症状にある親戚がいる。複雑で予測のつかないスケジュールと、ドロシーの慢性的で深刻な痛みによる肉体的制限とがあって、彼らのことをどれほど気にかけているか、実際的な方法で、適切に伝えきれていないように思う。

## 祈り

父よ、今朝、あなたが私をいつもより早く起こしてくださいましたことを感謝し、あなたをほめたたえます。あなたが持つておられる目的は、特別な方法で私の心に語ってくださるだけでなく、この時間、あなたのみことばを通して私に語られることを後から聴かれる方一人一人を祝福なさってくださいることであると信じています。

愛する主よ。後でこの記録を読む人達のことを考えず、あなただけに意識を集中させることが、私にとって難しいことであると、あなたはご存知です。ですから、私の心と意思と鉛筆に、特別に油を注いでください。そして、あなたとの親密な交わりが真に裏表のない現実であることが、良く伝わるようにされることを、祈ります。

あなたの御前で、私のいのちはキリストと共に神のうちに隠されていることを再び確信します。このような素晴らしい確信を与えてくださり、感謝します。愛する主よ、私がこの地上で、この手で書き記す記録が、悲しくも私の見解によって偏ってしまうかもしれませんが、天では、あな

たが私の大祭司であられ、あなたの完璧な知識とみこころに従って、父なる神の御座の前で、私の祈りと賛美を捧げてくださっています。ですから、主よ、あなたの御名をほめたたえます。今朝、私は、喜び、期待して、あなたのみことばに向かいます。私があなただのみことばのうちにある奇しいことを見つめますように、今日、私の目を開いてください。

親愛なる読者の皆さん。今、私は、第二コリント第一章を開き、ゆっくりと声を出して章全体を、はっきりした口調で、特定の個所で止まることなく読みます。あなたもそうされるようお招きします。

このようにして数分前にこの章を読んだ時、私は、キリストに仕えるしもべとしての、パウロの模範的行動を強く意識するようになりました。今朝、私が主と共に過ごす時間の中に、「この節には、従うべき模範が含まれているだろうか」という質問に対する答えがあることが、明白になりました。

章全体を読んだ一回目から、私の心は既に、聖霊によって、パウロの高貴な模範に従いたいと傾けられました。私は主のもっと良いしもべになりたいのです。この章を一節ごとに瞑想し始める前に、神にそう話します。

## 祈り

主イエスよ。私があなたに仕えた自分の人生を振り返る時、今、パウロの証の中に読み取ったのと同じような満足感を持って振り返りたいと、心から望みます。あなたは数えきれないほど多くの方法で、私の人生を祝福してくださいました。ですがほとんどの場合、それに対し私からお返ししなかったことを、悲しく思います。あなたと交わりたいという願いを心から表現するのに、心が疲れるほどなのに、あなたの苦しみに共にあずかる機会を与えられる時、臆病者のようにひるんでしまいます。これらの節を再び瞑想する時、どうぞ、あなたの御臨在と力とで、私を覆ってください、私の人生を変えるほどに新たに触れてください。そして、あなたの親愛なる御名のゆえに、私の自分勝手な習慣が、永遠に、そして根本的に変えられますように。

さて今、私は同じ章を各節ごとに読みますが、その時、そこに込められている一つ一つの考えに思いを巡らせます。そして、私の祈りに対し、神が答えとして私の心に伝えたいと願っておられるメッセージを、私が見逃す事が無いようにと、聖霊に祈り続けます。このようにして、神と私の両者間の会話が始まります。また、各節ごとに瞑想する時、既に慣れ親しんだ節も、急いで通り過ぎてしまわないように注意します。今日、神がその節を、新しく特別な方法で私の心に生きるように望まれているかもしれないからです。ですから、「この節には、父なる神について、新しい考えが含まれているだろうか」と自問します。

## 聖書の朗読

### 3 節「慈愛の父、すべての慰めの神」

今日、特に気付いたのは、神の父性に関するこの記述が、2節にも見られる神の父性についての記述に続けて書かれていることです。私の聖書の脚注によれば、2節のその部分に関し、「神と私たちの主イエス・キリストの父」とも訳されるとなっています。考えてください。唯一の神であり、主イエス・キリストの父なる神は、私のあわれみと慰めの父でもあるのです。私を慰めるため、天におられる父は、その恵みと平安を送ってくださっているのです。

### 祈り

父よ、私は感謝と賛美を持ってあなたの御前にひれ伏します。あなたの恵みを感謝します。あなたは私の心に、永遠にあなたのものであるあなたの平安をくださいました！神であられるあなたのうちに永遠に存在している平安、静けさ、調和は、あなたの恵みを通して、今日、私のものでもあるのです！ハレルヤ！聖霊によって、私のかき乱されている心に働きかけてください。あなたの聖なる御前にひれ伏す時、内住されるあなたの静けさと平安で私の人生を満たしてください。

## 聖書の朗読

4 節「神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。」

このパウロの証を瞑想するにつれ、私はパウロが天の御父から受けた「慰め」の文脈の中で用いている、他の言葉にも気付きました。それらは、「苦難」、「苦しみ」、「困難」、「死の危険」です。聖霊は、これらの言葉で表されている内容が、通常の意味での「慰め」とは大きくかけ離れたことである事実、私の注意を引き付けられているようです。

読んでいて、もう一つ気付いたのは、パウロは、人生の全ての困難は、ある特定の目的のために、神の許しの下に起こっているのだと証していることです。「これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。」また、私は4節から、神がパウロに慰めを与えられたのは、パウロを快適にさせるためではなく、パウロが他の人達を慰める者になるためであったことを読み取りました。私はこれについて、祈り通さなければなりません！

### 祈り

そうです、主よ。私の人生の中で、痛み苦しんでいる人達に、慰めと励ましを与えたいと心から願った時のことを、あなたはよく御存知です。ドロシーがその身体の痛みで、あまりに頻繁にひどく苦しむたびごとに、神の慰めを彼女にもたらしたいと、強く願ってきました。

ドロシーから多くを受ける反面、彼女には、私を通してあなたの恵みと平安を与えることがあまりにも少ないように思います。自分勝手な私をどうぞお赦してください。そして、仕えられたいという願いでなく、仕えたいという願いで、私を新たに満たしてください。

また、飢餓や病気や死が満ちている、荒廃した困難な状況の中で苦しむ、何百万もの痛み苦しんでいる人達のことを思います。あなたの恵みと平安が私の心の内で益々大きくされ、私の人生にあなたがおられることが明らかにされますように。そして、そのような恐ろしい状況の中で暮らす人達の重荷を軽くし、彼らを慰めるために、私の人生が用いられますように、祈ります。

主イエスよ、今こうして祈っている間にも、人生の苦難がどれほど厳しく辛くても、その一つ一つにあなたの慰めがあり、また、それらの苦難が、自分自身ではなく、あなたに信頼するようになるために、あなたが愛の心を持って許されることが、さらによく分かります。

この時点で、神の言葉は私の心に染み透り、力強いものになっています。あのパウロでさえ、自分への自信をことごとく剥ぎ取られるために、憂鬱になる数々の厳しい困難を通して、神から働きかけを受けたのです。ならば、もし、神がその愛で、私のプライドを取り扱われるために、困難と逆境を通して祈りに答えられるのであれば、私はそれに対し、なぜ文句を言えるでしょうか。

## 祈り

そうです、主よ、私の人生におけるあなたの愛の働きを感謝したいのです。他の人が読むためにこの祈りを記録するのは難しいですが、パウロが自分の愛した人達の面前で、自分自身の厳しい試練について透明な態度を保っていたことに励まされます。彼は証を人生の良い部分だけに制限しませんでした。ですから今日、心の底から、あなたに仕える中での孤独な瞬間について、あなたが私の人生にお許しになったあらゆる心の痛みについて、人から誤解された経験について、愚かで罪深い私の大失敗について、あなたではなく自分を信頼したために失敗し、圧倒された状況について、心の底からあなたを賛美いたします。主イエスよ、今、あなたの聖なる臨在の中で、私は自分自身ではなくあなたを信頼することを、パウロと共に断言します。

主よ、つい先日、「私達は神によって十分である（私達の力は神から来る）」というパウロの言葉を読みました。今朝、私は信仰によって、あなたが私に十分であり、あなただけが私の力であると、断言します。親愛なる主よ、私の目の前に開かれている聖書の言葉を使って、あなたをほめたたえます。あなたは私を救い出してくださいました。あなたは現在も私を救い出しておられます。そして、あなたはこれからも救い出してくださいます。私を、私自身から！主イ

エスよ、あなたに感謝します。そのような素晴らしい救いのために！

主よ、今、あなたの慰めで聖霊が私の心を強めてくださる中、今日、私が出会うかもしれない神の愛を必要とする人達に、あなたの慰めと助けを運ぶために、愛のある実際的な方法で私を用いてくださいますように、期待してお願い致します。

### 聖書の朗読

**11節**「あなたがたも祈りによって、私たちを助けて協力してくださるでしょう。・・・多くの人々の祈りにより、・・・。」

大勢の人々の顔が主を仰ぎ見て、パウロのためにとりなさなかったら、彼の働きはどのようなものだったろうかと思います。同様に私も、祈りによって共に助けてくれる多くの友がいなかったら、私は今日、どこにいたろうかと思います。

### 祈り

父よ、あなたは、ドロシーと私のために祈る気持ちを、あなたが愛する多くの子供達の心に植えてくださいました。そのような私に対するあなたの愛の大きさを把握することはできません。そのような驚くべき愛に対し、私はあなたへの感謝をどのように表すことができるでしょう。

さて、今、私は特にこれらの友人の何人かを、とりなしの祈りの中で神にゆだねます。私はとりなしの祈りをする時に、聖霊が私の心と人生に印象付けてくださった聖書のみことばの光に照らし合わせながら、彼らのために祈るように努めます。彼らが完全に主に信頼する時、神がご自身の慰め（と力）を彼らの心と人生にもたらしてくださるように願い求めます。<sup>6</sup>

### 聖書の朗読

**15、17～18節**「私はあなたがたのところへ行こうとしたのです。…… それとも、私の計画は人間的な計画であったのでしょうか。…… あなたがたに対する私たちのことばは、『しかり。』と言って、同時に『否。』と言うようなものではありません。（英語訳より）」

私はこの一連の考えを瞑想します。パウロは、彼がコリントを再び訪れる唯一の理由は、パウロが愛していた聖徒達へ「慰め」と「励まし」と「益」を与えることであったと証しています。パウロは彼らから何かを得るためではなく、逆に、彼らに与えるために、コリントに行くことを望んでいたのです。パウロはまた、旅の計画を軽卒に立てたのではないことも証しています。（パウロの旅費を誰が支払うかについては一切言及されておらず、彼が出かけることに関して、金銭

---

<sup>6</sup> とりなしの祈りに関しては、付録Cを参考にしてください。

は全く問題にしていなかったことに気がきました！)パウロ個人の益は、コリントに行こうという彼の決心とは、確実に、無関係でした。

### 祈り

親愛なる主よ。あなたの霊によって、そして、あなたのみことばを通して、私が今秋どこに行つてあなたのために働くかに関するあなたのみこころを決断する時、あなたの聖霊の働きを消してしまうような、私の心の中にある間違つた動機を、お示してください。主よ、パウロが自分の旅の計画を変えろという通常ではない決心をした時に、コリントにいたクリスチャンたちはパウロの動機を誤解しましたが、パウロはあなたの霊の導きによってのみ、確信していたように思えます。しかし主よ、パウロは旅程に関する質問に対して、「しかり」と言った後で「否」と返事を変えましたが、パウロが説教したみことばは、「しかり」であつて「否」というものではなかったことをあなたに感謝します。なぜなら、キリストにあつては、答えはいつも変わることなく永遠に「しかり(その通り)」だからです。あなたのお心が変化することは全くありません。主よ、パウロが宣教した神の言葉はあなたによって永遠に正しいと認証されているのです。主よ、あなたがこの世において、堅固な岩になってくださることを感謝します。私のいるこの世においては、状況があまりにもすばやく変化し、計画を立てる必要がありますが、時として計画の変更も必要とされます。主よ、私はあなたの御計画を知る必要があります。早く済ませてしまおうとか、特別な機会を逃さないようにしようなどという、自分の心から流れてくる決断から私を救ってください。毎日あなたとの親密な交わりの中に私を歩ませてくださいますように、お祈り致します。

### 聖書の朗読

**20節** 「なぜならば全ての神の約束はキリストにおいて、『しかり(その通り)』であり、神の栄光のために、キリストにあつて、私たちを通して『アーメン』だからです。」(英語訳より)

神の約束が「私たちを通して」個人的にされていることを観察する時、この節の中に「私が宣言すべき約束があるだろうか」と自問します。

### 祈り

主よ、私たちを通してですか。神の約束が私たちを通して！キリストにある神の約束？キリストにおいて全ての神の約束ですか。そうです、主よ！ありがとうございます。今朝、あなたの聖なる臨在の中で、私はそれに対し、自分自身の「その通り」と「アーメン」を記録したいと思ひます、主よ！ああ、神よ。キリストにおいてあなたが私にくださった全てのことを理解することはできません。実際、親愛なる主よ、あなたなしでは私の人生は何と空虚なものであるか、想像もできません。今、主イエスよ、今日という日の全ての機会、試練、決断の要求を前にして、あなたこそが、それらに直面するために私が必要とする全てであられることを、確認致します。

神の平安が私の魂に溢れるまま、今、しばらくの間、主を賛美しほめたたえます。私の祈りのリクエストへの具体的な応答をまだ知りませんが、それはあまり問題ではありません。なぜならば、私の心には神の平安があるからです。私は主と、貴重な「神と共に過ごす時」を持ったのです。神をほめたたえます！今、今日という日を始めるにあたり、神は私に聖書のみことばから貴重な糧をくださいました。それは後に、今日という一日が要求してくることに直面する時、私の思いと心が思い返すことができる貴重な糧なのです。

ですから、私達一人一人が、毎朝、最も重要で一番優先されるべき義務は、「私達の魂を神の御前にあって幸せな状態にする」ことだということを、継続していつも覚えていようではありませんか。

主イエスが、毎朝あなたを個人的に招待してくださっていると知ることは、なんと素晴らしいことでしょう。神は恵み深く、あなたの名前を呼んで、「来て**食べよ**」とあなたを招いておられるのです！

あなたの真実が変わることなく永遠に立っている。  
あなたはご自身の元に召された者達をお救いになる。  
あなたを求める者に、あなたはまことにいつくしみ深い。  
全てにおいて全てであられる、あなたを見出す者に。

ああ、生きたパンであるあなたを、私達は味わう。  
そして、今もまだ、あなたにあつて食べ祝いたいと切望する。  
私達はあなたを飲む。唯一潤れることのない泉の源よ。  
あなたに満たされるまでは、私達の魂は渇いている。

クレアボーのベルナルド

Bernard of Clairvaux



## 神と共に過ごす時

毎日聖書を朗読する際、以下の質問を頭に留めながら一節ごとに瞑想しましょう。

この節の中に、

- 宣言すべき約束が含まれているだろうか。
- 避けるべき罪が含まれているだろうか。
- 注意すべき警告が含まれているだろうか。
- 従うべき命令が含まれているだろうか。
- 倣うべき良い例が含まれているだろうか。
- 避けるべき悪い例が含まれているだろうか。
- 父なる神についての新しい洞察を見出せるだろうか。
- 子なる神についての新しい洞察を見出せるだろうか。
- 聖霊なる神についての新しい洞察を見出せるだろうか。
- サタンについて、新しいことは洞察できるだろうか。
- サタンの残酷な目的について、新しいことは洞察できるだろうか。
- サタンの巧妙なやり口について、新しいことは洞察できるだろうか。

また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。（ヤコブ 1 : 22、25）

## 聖書の学び

あなたが読む聖書箇所について、以下の質問を問いかけることによって、真に報いのある体系的なバイブル・スタディを持つことができるでしょう。

- この箇所は、誰について語っているのだろうか。
- この箇所は、誰に向けられているのだろうか。
- この著者は、どのような特定の言葉を使っているだろうか。
- この箇所は、どのような時に書かれたのだろうか。
- この箇所は、どこから書かれたのだろうか。
- この箇所は、どのような目的で書かれたのだろうか。
- この箇所は、どのような状況において書かれたのだろうか。
- この箇所は、その前後に書かれている事柄と、どのように関連しているのだろうか。

あなたは熟練した者、すなわち真理のみことばをまっすぐに解き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。（第二テモテ2:15）

注意：知識としての聖書の学びは、毎日絶対に必要とされるものではありませんが、日々の「神と共に過ごす時」は、あなたの霊的成長のためには必要不可欠です。

## 付録 C

### 日々の祈りのガイド

妻のドロシーと私は、日々のとりなしの祈りにおいて、50年以上前に、私がキリストに回心した後すぐに、伝道者であるトマス・リーズ師により最初に提言された祈りの手順にのっとってきました。その手順は、例えば、「月曜日(マンデー、Monday)のMは、宣教師(ミッショナリー、Missionary)のM」なので、月曜日は宣教師のためにとりなしの祈りを捧げる、というものです。

私達の魂を神のみことばで満たし、そのみことばが頭から心に移るように祈った後、とりなしの祈りは生き生きとしたものになります。つまり、機械的な毎日の慣習になる代わりに、他の人々のためのとりなしは、彼らのために感謝を捧げ、とりなすだけでなく、彼らを心に留めて気にかけるための、ある程度の長さを持った、フレッシュな時間になります。私達は、これに関して記述したリストを持ってはいませんが、それらが何であろうとも、聖霊ご自身が、私達の祈りの時間を拡張し、すぐに必要とされている彼らの祈りの必要を全て網羅してくださっていると信頼しています。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝を持って捧げる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」(ピリピ4:6)

注意：以下に続く「日々の祈りのガイド」は、あなたの個人的な懸念や、日々起こる心配事のために祈る、あなた自身の必要のための祈りを省くことにはなりません。

## 「日々の祈りのガイド」

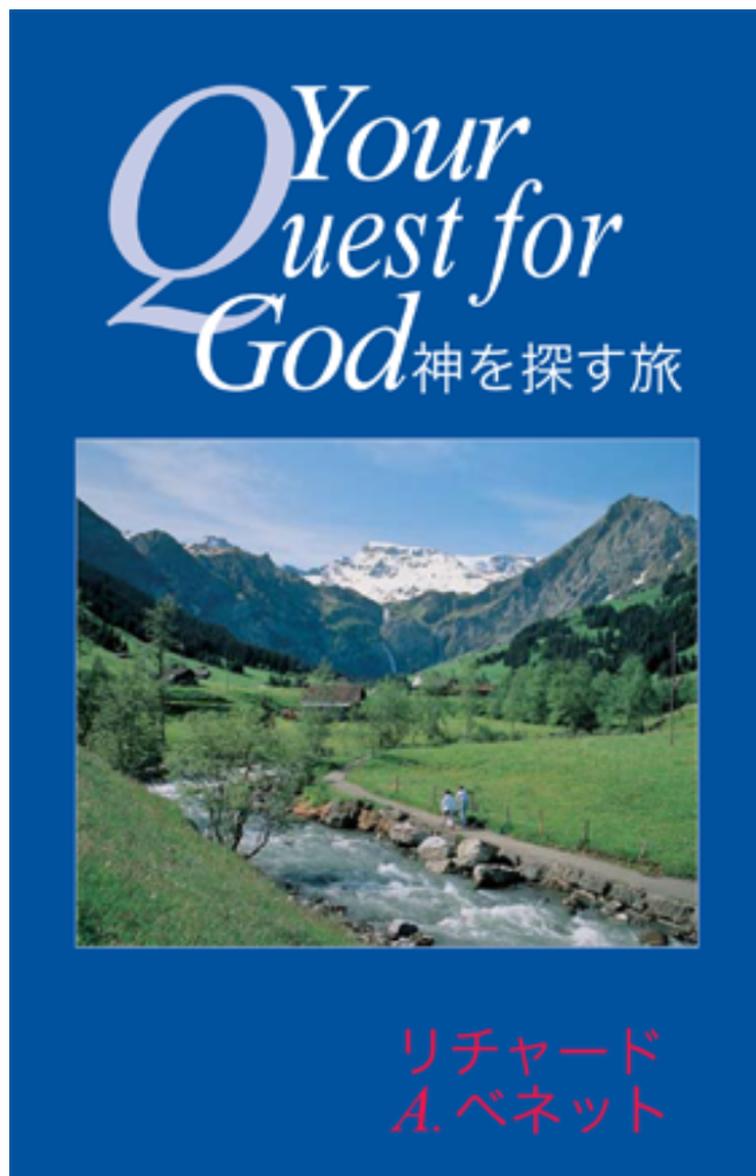
- 月曜日 (Monday) 宣教師 (Missionaries) : 神が、祈るように興味を向けさせてくださった、私達と関わりを持たせてくださった、宣教師達のために。
- 火曜日 (Tuesday) 感謝 (Thanksgiving) : 神が神であられることのゆえに、神が成してくださった事、神がこれから成して下さる事、神が与えてくださったもの全てのために、特に感謝を捧げ賛美する日。
- 水曜日 (Wednesday) 働き人 (Workers) : 牧師、伝道者、聖書教師、クリスチャンの働き人のために。
- 木曜日 (Thursday) 務め (Tasks) : 家庭での責任、神の働きのための義務、経済的な責務などのために。
- 金曜日 (Friday) 家族 (Family) : 肉の家族であり、私達夫婦にとって大切な人々、親戚一同のために。そして、キリストにあって、私達の子供や孫となった人々のために。
- 土曜日 (Saturday) 罪人 (Sinners) : 世界各地での「神を捜す旅」の働きのために。私達が道で出会った人々、証した人々、まだ救われていない家族のためなど。
- 日曜日 (Sunday) 聖徒 (Saints) : 私達が知る範囲で、最近救い主を見出した人々のために。神が私達の人生を豊かにして下さった祈りの協力者である人々のために。迫害されている教会——その詳しい情報を熱心に捜し求め、その教会で今日リバイバルが起こるよう、と求めて止まない教会——のために。

---

あなたが、救いに関する神の方法について、より総括的な説明を望んでいるならば、「信仰の糧 (Food for Faith)」の著者は、そのような方のために、「神を探す旅 (Your Quest for God)」を、執筆しました。

「神を探す旅 (Your Quest for God)」は、  
伝道のためのツールです。

---



伝道はエキサイティングだが、新しいクリスチャンを弟子訓練していくのは大変な仕事だ。「信仰の糧」は、アメリカの混乱したファーストフード的クリスチャン文化の中で成長しなくてはな

らない新しいクリスチャンにとって、まさにバランスの取れたダイエットである。

アーノルド・クック 退職名誉代表  
クリスチャン&ミッショナリー・アライアンス  
カナダ

「信仰の糧」を読み始めてすぐに、真理の優雅な解説に引きつけられ、頭も心もその甘い道理になかった真理に魅了され、手放せなくなってしまった！ページをめくる度に、「クリスチャン人生の本質に関して表現された感情にこんなに引き込まれたのは久しぶりだ」と自分に言い聞かせていた。

ウィリアム・スティル 牧師  
スコットランド教会  
アバディーン

「信仰の糧」は、聖書の基礎を確立し、神の豊富な提供をキリストにあって共にあずかる準備ができていない者に対し、実用的なガイドラインを提供している。同時に本書は、その素晴らしい命の源へと他の人々をも導くようにと読者を励ましている。

イアン・トーマス 代表  
ケパーンレイ・ミッショナリー・フェローシップ  
コロラド州

「信仰の糧」は、読者が強く生き生きとした神を崇めるキリストの仕え人となるのを、大いに助けるであろう。

チャック・スミス 牧師  
カルバリー・チャペル  
カリフォルニア州、コスタメサ

本書を自分の母国語に翻訳されたものを校正・編集する作業に携わった。この本を読んで非常に祝福された。我々は様々な事実を頭の知識として持つてはいるが、それら貴重な真理を新しい光の中で発見した。これは、私の人生で出会った単なる一冊の良い本ではなく、私の人生の中に入ってきた神の言葉であると信じている。

イムリッチ・フロップ  
MSEJK

スロバキア、ブラティスラバ

著者の数々の本を長年使用している。自分は教会でクリスチャンが成熟していくように教えているが、その中で、日々の「神と共に過ごす時」を習慣付けるように励ましている。この「信仰の糧」は、それにピッタリの本だ！このような「神と共に過ごす時」に関する他の本は無く、本書は祝福である。

フランク・アカーディ 牧師

伝道的バプテスト教会  
ニューハンプシャー州ラコニア

章を読み進む毎に、「もし自分が現在教会の牧師であれば、クリスチャンを弟子訓練・成長させるためのグループで使用するのにパーフェクトな本だ」と、考えていた。

ビル・ウライ退職代表  
トランス・ワールド・ラジオ  
東アジア

本書を読み始めると、すぐにそれが、ベネット博士の心から私達自身の個人的な世界になる事に気付く。しかし読み進むにつれ、それが更に個人的で力強く、神ご自身との更に親密な交わりへと私達を招いておられる、神のみこころからの言葉となる。新しい信者も長い信仰者も、この新鮮な本を何度も読む事によって非常に祝福されるだろう。本書は生かされるべき聖書の真理の宝庫である。

ジョン・グレーション博士、退職教授  
ウィートン大学院  
イリノイ州



# Food for 信仰の糧 Faith

リチャード・ベネット博士は、主にアメリカ、カナダ、ヨーロッパ、アフリカの数々の教会、コンファレンス、聖書学校で、45年以上にも渡るミニストリーを続けています。そのうち20年間、彼の聖書の教えは、宣教ラジオ放送局である、トランス・ワールド・ラジオとファー・イースト放送局を通し、5大陸に定期的に放送されてきました。リチャード氏とドロシー婦人は、戦略的なミニストリーを通し、人々が復活された主イエス・キリストをもっと親密な方法で知るように助けたいと、熱心に願っています。

「最大の益を得るためには、霊的な食物である神のみことばが、味わわれ、栄養とされ、消化されなければなりません。この過程がどのように起こるかを、ベネット博士は示してくださっています。」

スティーブン・オルフォード博士



[www.ccim-media.com/japanese](http://www.ccim-media.com/japanese)